

[注] 三峠断層は岡田・東郷 (2000)⁽³⁹⁾を転記

第3.2.8図 敷地周辺陸域の変動地形・リニアメント分布図



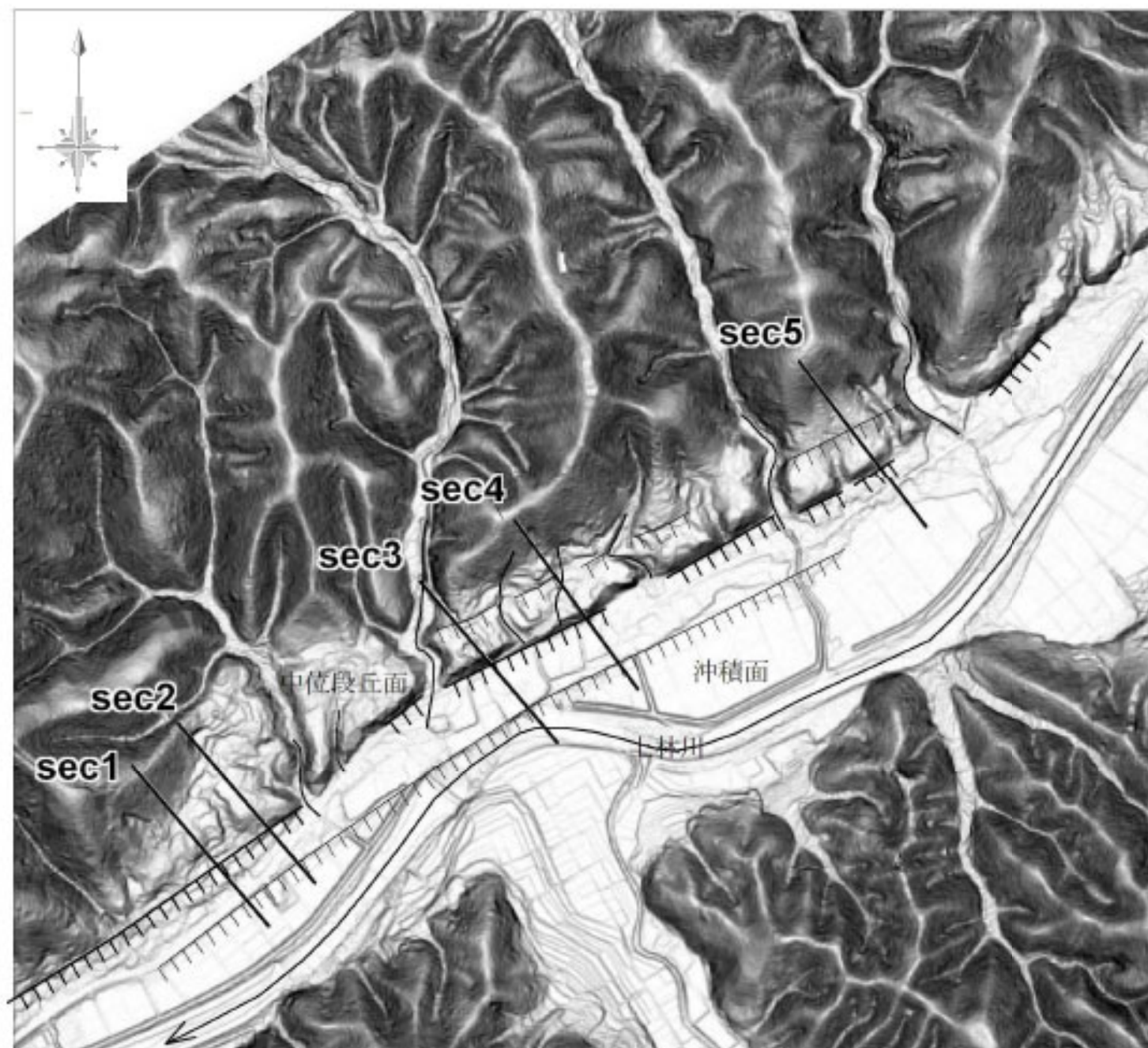
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」

変動地形・リニアメントの凡例

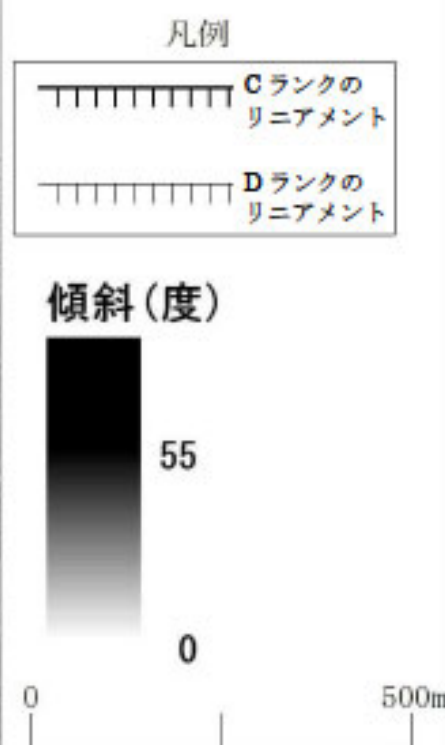
	Bランク
	Cランク
	Dランク
	短線は低く、矢印は高く、縮線がないリニアメントは開削で、実線の縮線が認められないもの。
	谷の屈曲
	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

地形面の凡例

	高位I段丘面		低位段丘面
	高位II段丘面		最低位段丘面(完新世)
	中位I段丘面		新期扇状地面
	中位II段丘面		沖積面
	人工改変地		

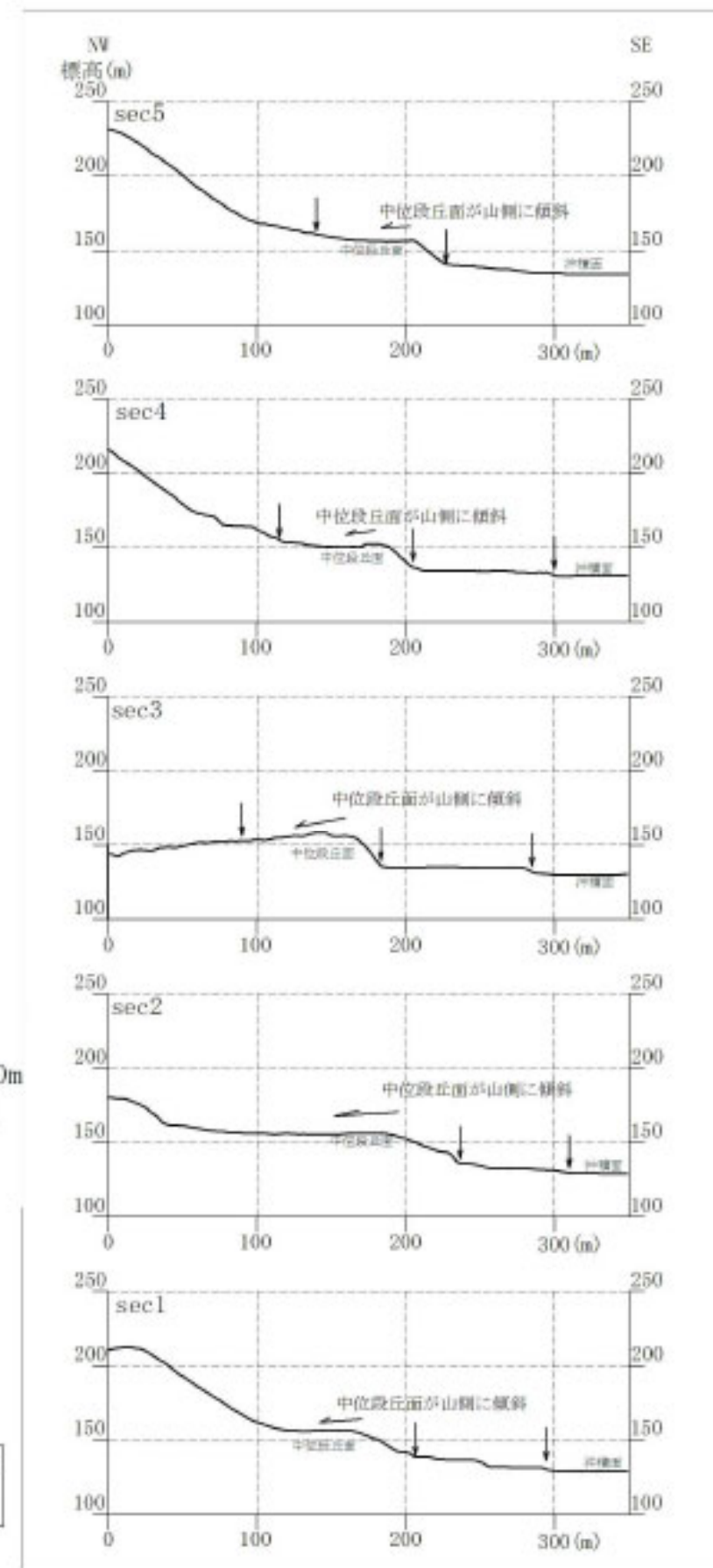
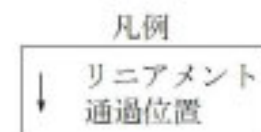


睦合町付近の詳細傾斜量図



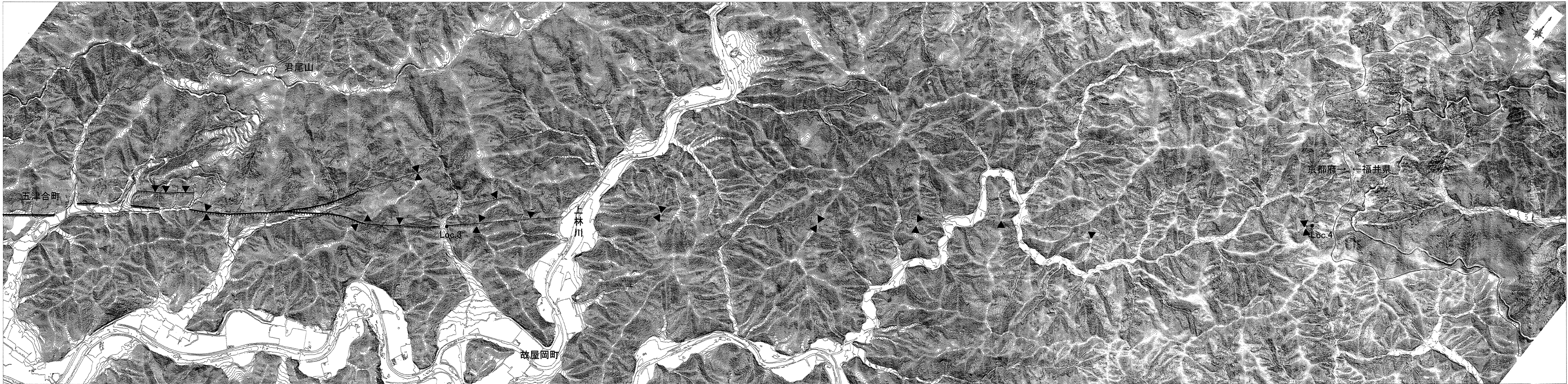
航空レーザー測量による詳細傾斜量図に、空中写真判読によるリニアメントを記入し、変動地形の検討結果を以下のようにまとめた。

- ① 上林川北岸の山麓と中位段丘の境界付近の直線的な崖(Dランクのリニアメント)は不鮮明である。その付近に微弱な谷の右屈曲が認められるが、その区間は短い。
- ② 図中央の中位段丘面と沖積面との段丘崖は、ほぼ直線状に連なりCランクのリニアメントの位置にはほぼ一致する。段丘崖は急崖で、中位段丘面は浸食方向と逆向きに北西側に僅かに傾斜している(地形断面図参照)。
- ③ 沖積面にDランクのリニアメントとして判読している低崖は、詳細傾斜量図や地形断面図にやや湾曲する崖地形として表れた。現地調査では崖の比高は約1~2mであった。



地形断面図

第 3.2.10 図 睦合町付近の詳細傾斜量図及び地形断面図

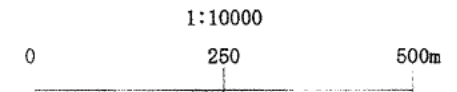


五津合町から故屋岡町に至る区間に、河谷や尾根の系統的な右屈曲、直線谷、直線状の斜面末端や崖、鞍部、斜面・尾根の傾斜変換線からなるNE-SW方向のB～Dランクのリニアメントを判読した。東部の故屋岡町付近では、リニアメントは分岐し、東側ほどリニアメントは不明瞭となり、上林川西岸で消失する。

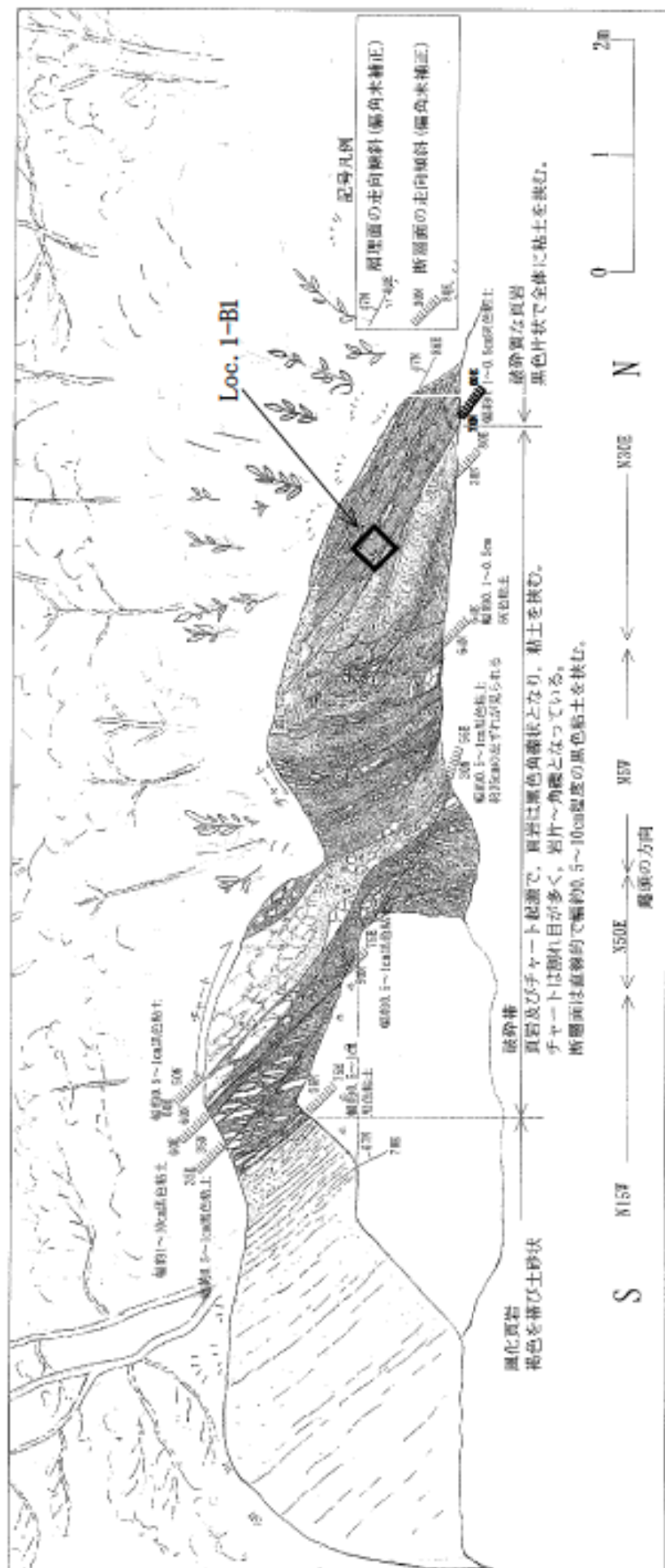
上林川東岸から県境付近 (Loc.4) までの区間に、航空レーザー測量では不明瞭な鞍部と尾根・斜面の傾斜変換線が散在するが、尾根・河谷の屈曲や地形面の高度変化等の変動地形は認められない。

変動地形・リニアメントの凡例

	Bランク
	Cランク
	Dランク
	谷の屈曲
	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	鞍部
	傾斜変換線



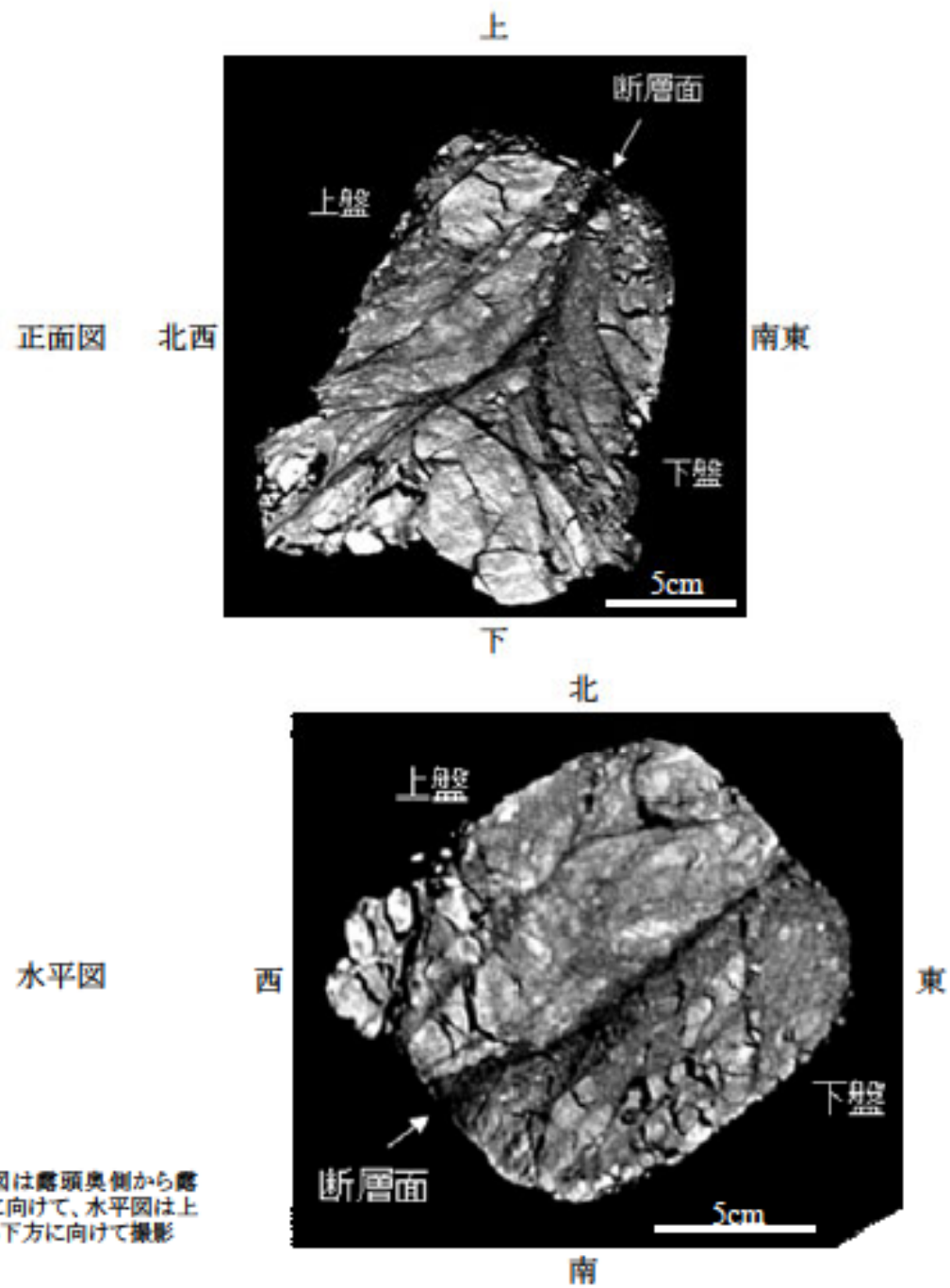
第3.2.11図 航空レーザー測量により作成した地形図
(故屋岡町～県境付近)
6-3-230



リニアメントに近接する頁岩中の破砕帯
 リニアメントは破砕帯の北側を通過する。確認された破砕帯は約5m。南側は、
 下盤の頁岩と断層面で接する。破砕帯の上盤側境界は確認できない。
 破砕帯は黒色角礫状で全体に粘土を挟む。所々に岩片～角礫状のチャートを
 挟む。
 露頭に見られる断層面のうち、最も直線性が高い主断層面 (N60° E70° N)
 でブロックサンプリングを行い、糸線観察を行った。

第 3.2.13 図 上林川断層 露頭スケッチ (Loc. 1)

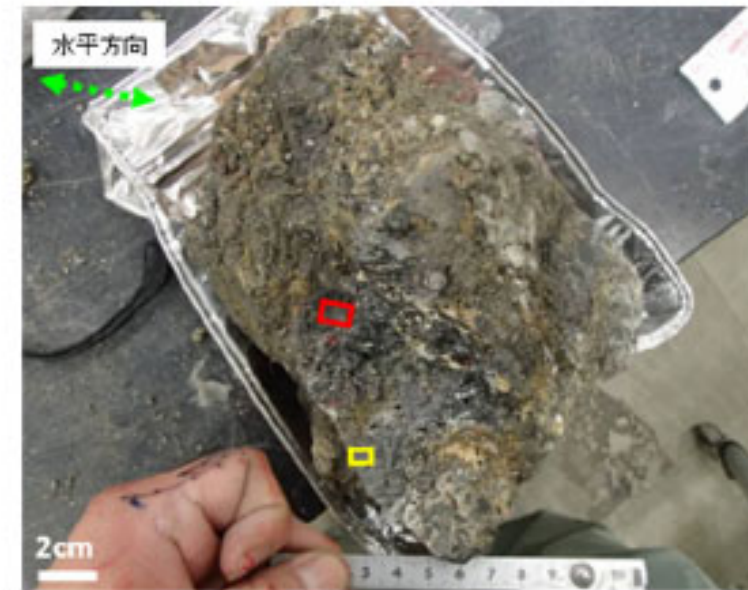
CT画像解析結果(Loc.1-B1)



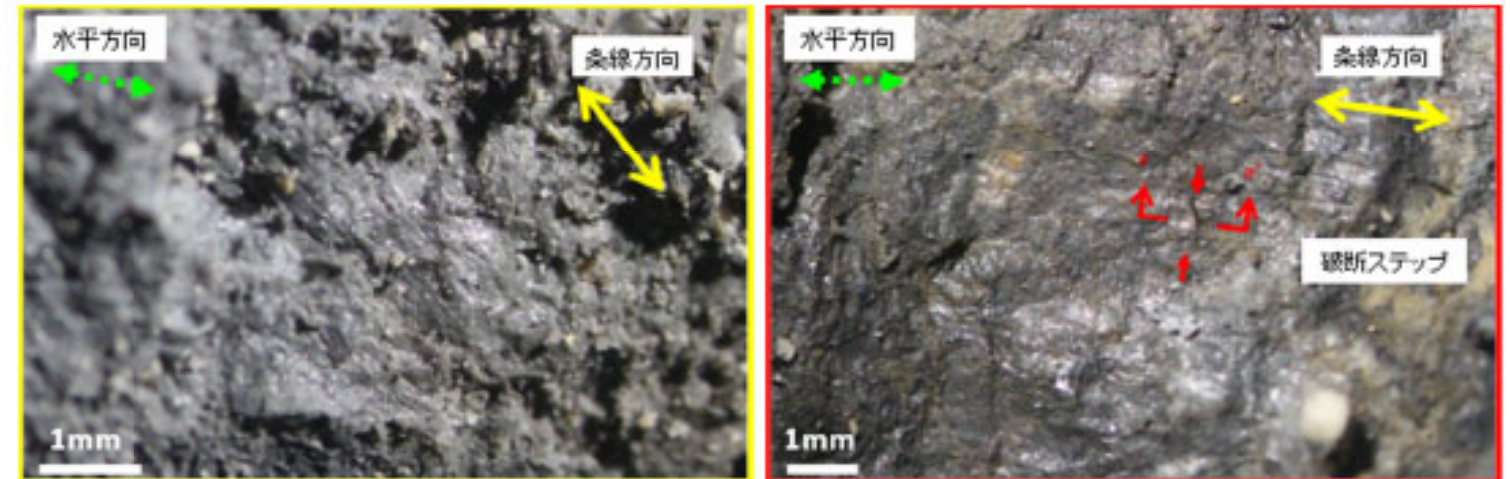
※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、水平図は上方から下方に向けて撮影

断層の走向傾斜: TN53E/70N (現場での計測データ)
 縦ずれ成分: 逆断層 (北西隆起), 横ずれ成分: 右横ずれ
 断層面の傾斜はブロック下部でやや緩くなる。
 断層面に沿う幅約 1cm のゾーンで密度低下が顕著 (断層ガウジ)
 上盤側に比べ下盤側は密度が低い。

条線観察結果 (Loc.1-B1)

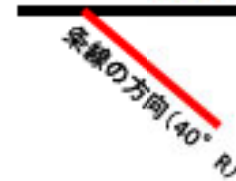


Loc.1-B1(下盤上面)



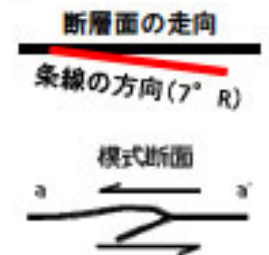
断層面の状況 (最新面直近、上盤側に分布する断層面)

断層面の走向 センス不明

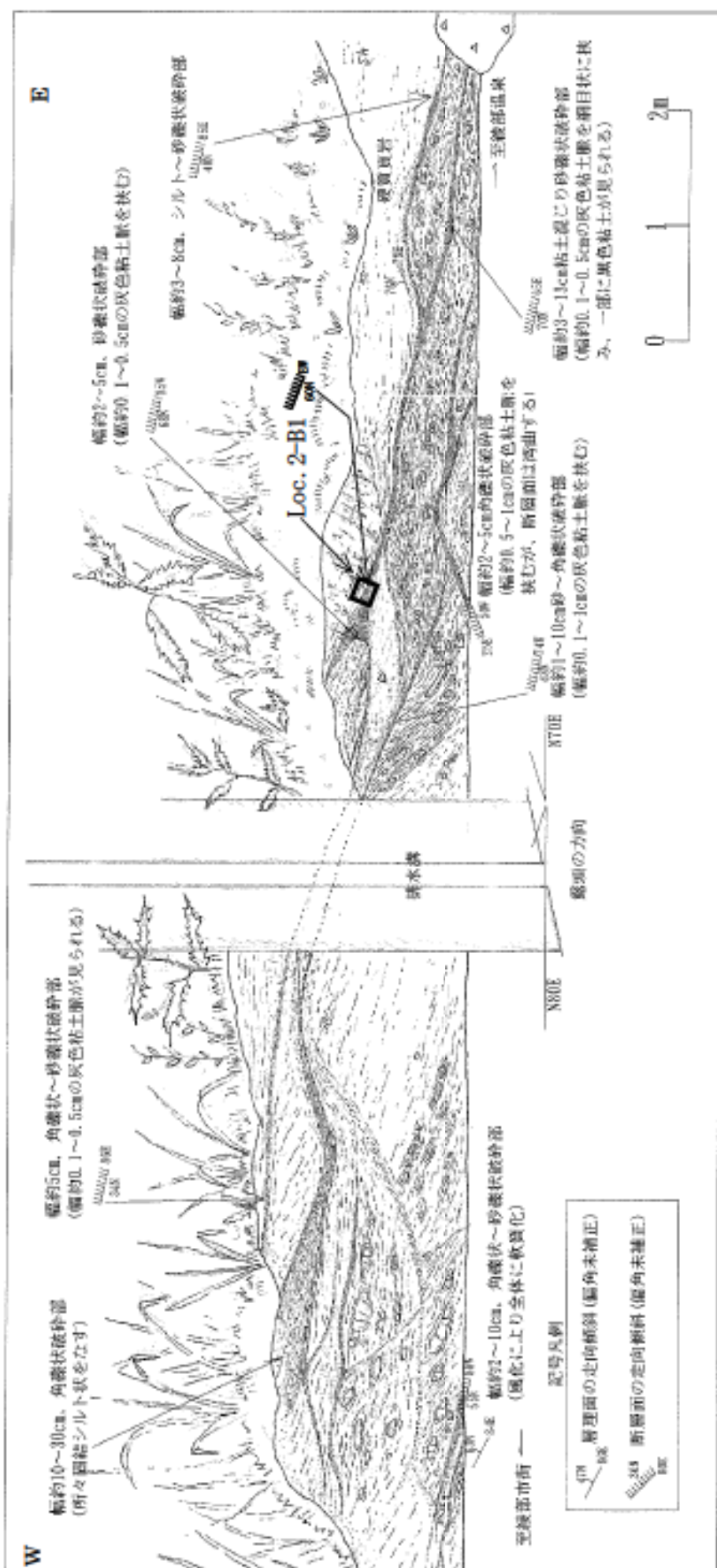


断層面の状況 (最新面)

右横ずれ逆断層センス



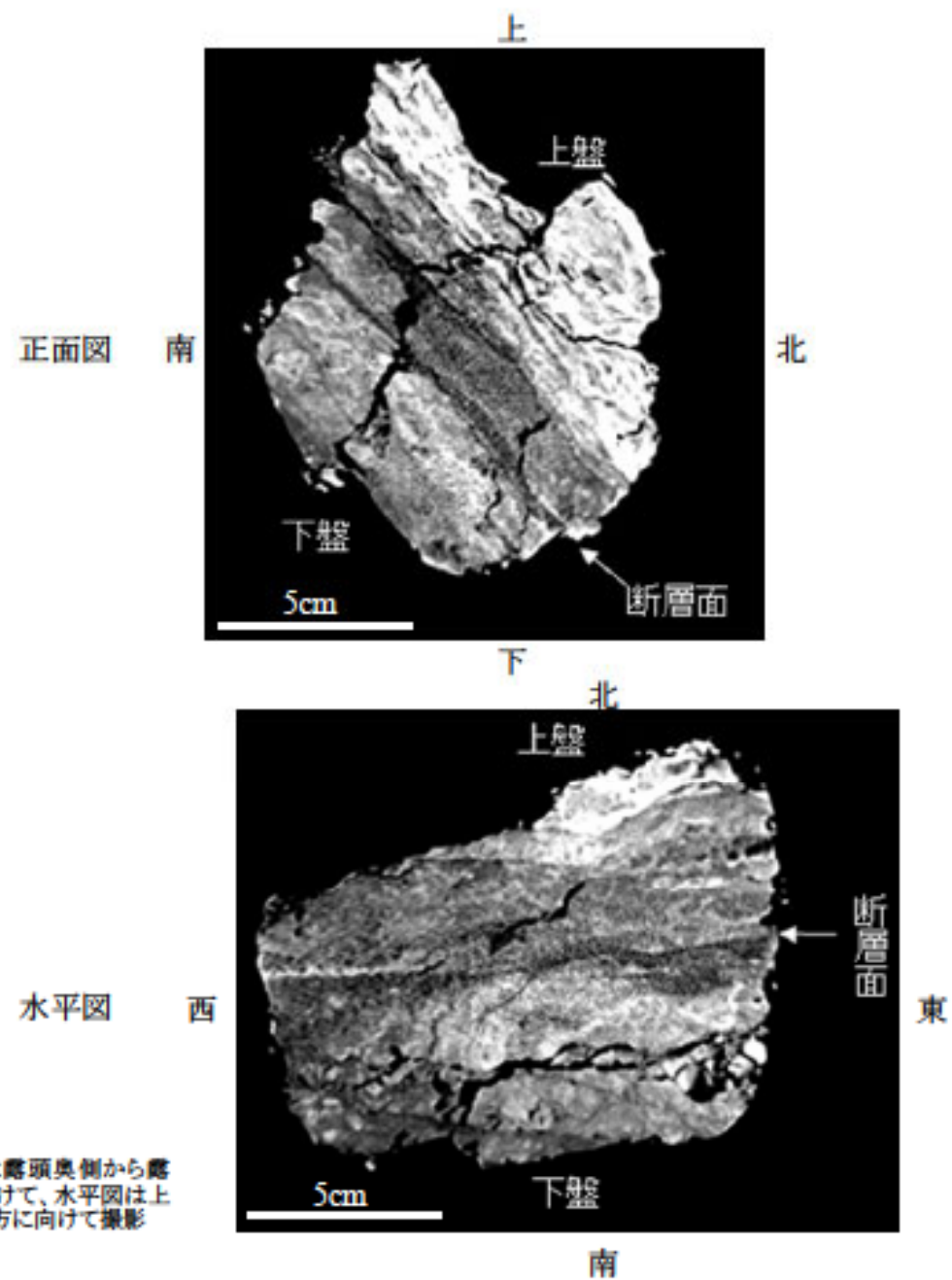
- 条線観察の結果, 条線のレイクは 7° R, 40° R であり, 右横ずれ逆断層センスが読み取れる断層面も認められた。
- これは, 旭町付近で判読される変動地形・リニアメントとも整合し, 現在の広域応力場とも調和的である。



第 3.2.15 図 上林川断層 露頭スケッチ (Loc. 2)

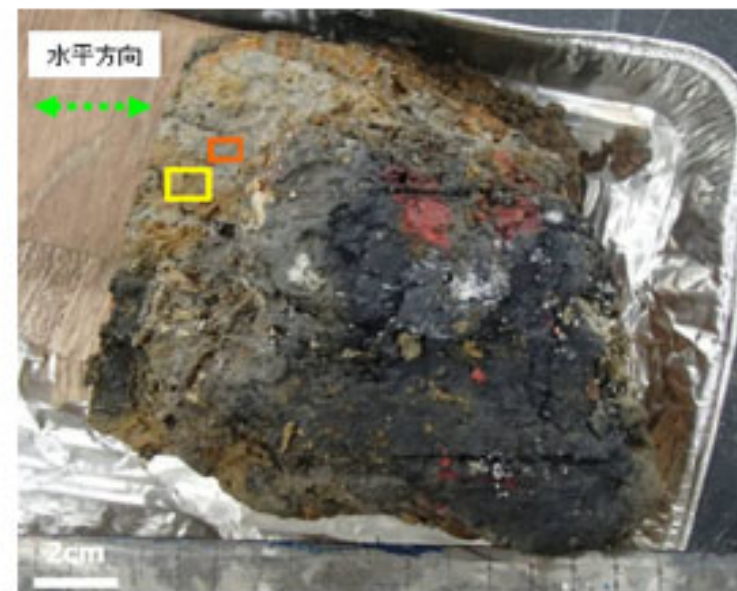
リニアメントに近接する頁岩中の破砕帯
 道路北側法面で確認した破砕帯。リニアメントは、道路直下を通過し、断層本体は露頭の南側に位置すると想定される。
 へき間の発達した頁岩の中に幅約1~30cmの破砕部がリニアメントに並行して複数認められる。
 破砕部と周囲の頁岩との境界は不明瞭で、破砕部中の断層面は高曲する。多くは砂~角礫状であり、幅約0.1~1.0cmの粘土脈を網目状に挟む。
 頁岩との境界に認められる灰色粘土脈を挟む比較的に直線性が高い断層面 (E/W 60° N) でブロックサンプリングを行い、条線観察を行った。

CT画像解析結果 (Loc.2-B1)

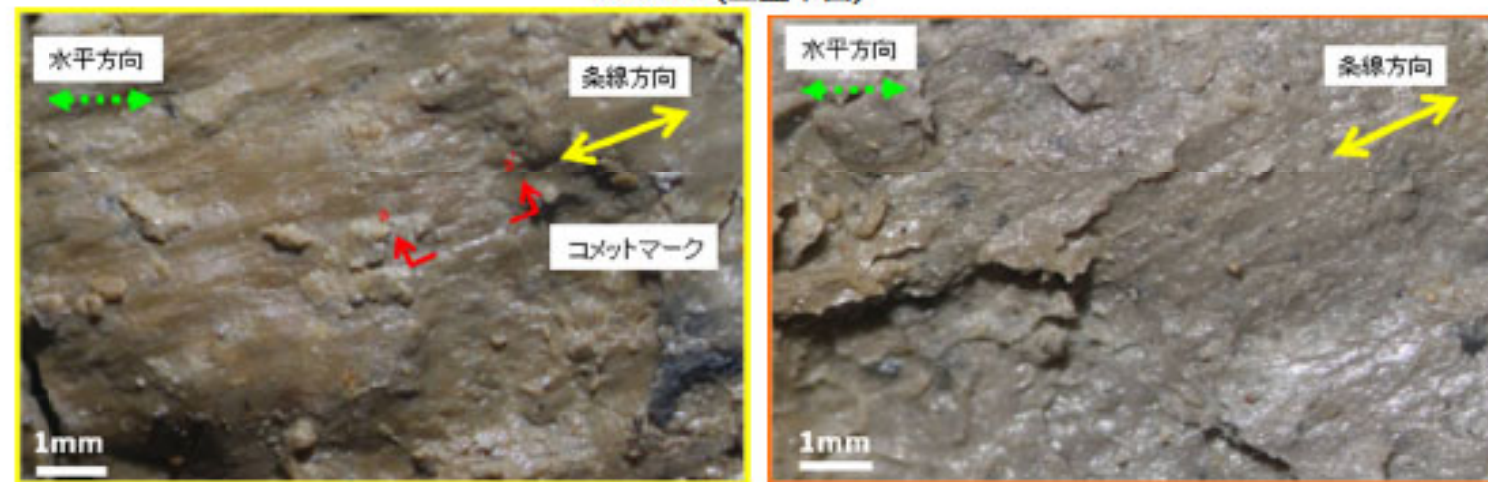


断層の走向傾斜: TN83E/60N (現場での計測データ)
 縦ずれ成分: 不明, 横ずれ成分: 右横ずれ
 断層面に沿う幅約 1cm のゾーンで密度低下が顕著 (断層ガウジ)
 上盤側に比べ下盤側は密度が低い。

条線観察結果 (Loc.2-B1)



Loc.2-B1(上盤下面)



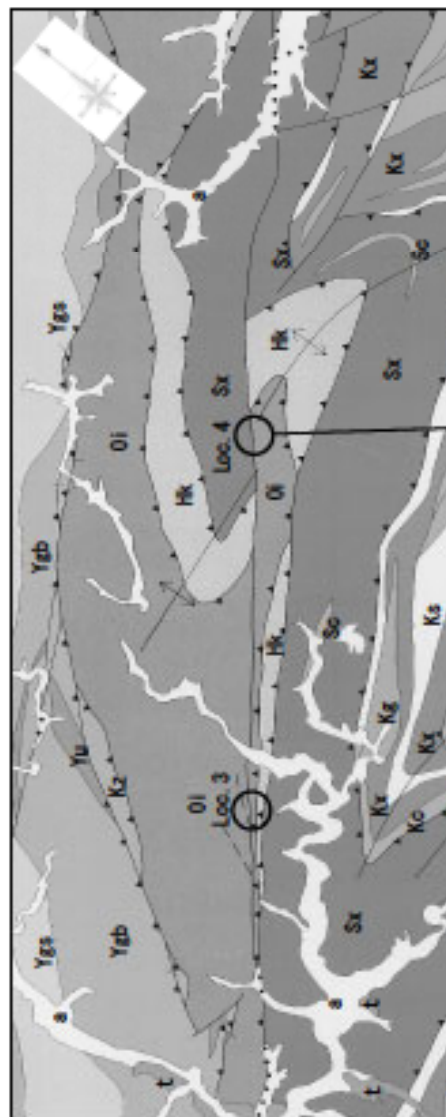
断層面の状況 (最新面直近、下盤側の断層面)

断層面の状況 (最新面)



- ・条線観察の結果, 条線のレイクは 20° R, 25° R であり, 右横ずれ逆断層センスが読み取れる断層面も認められた。
- ・これは, 五津合町付近で判読される変動地形・リニアメントとも整合し, 現在の広域応力場とも調和的である。

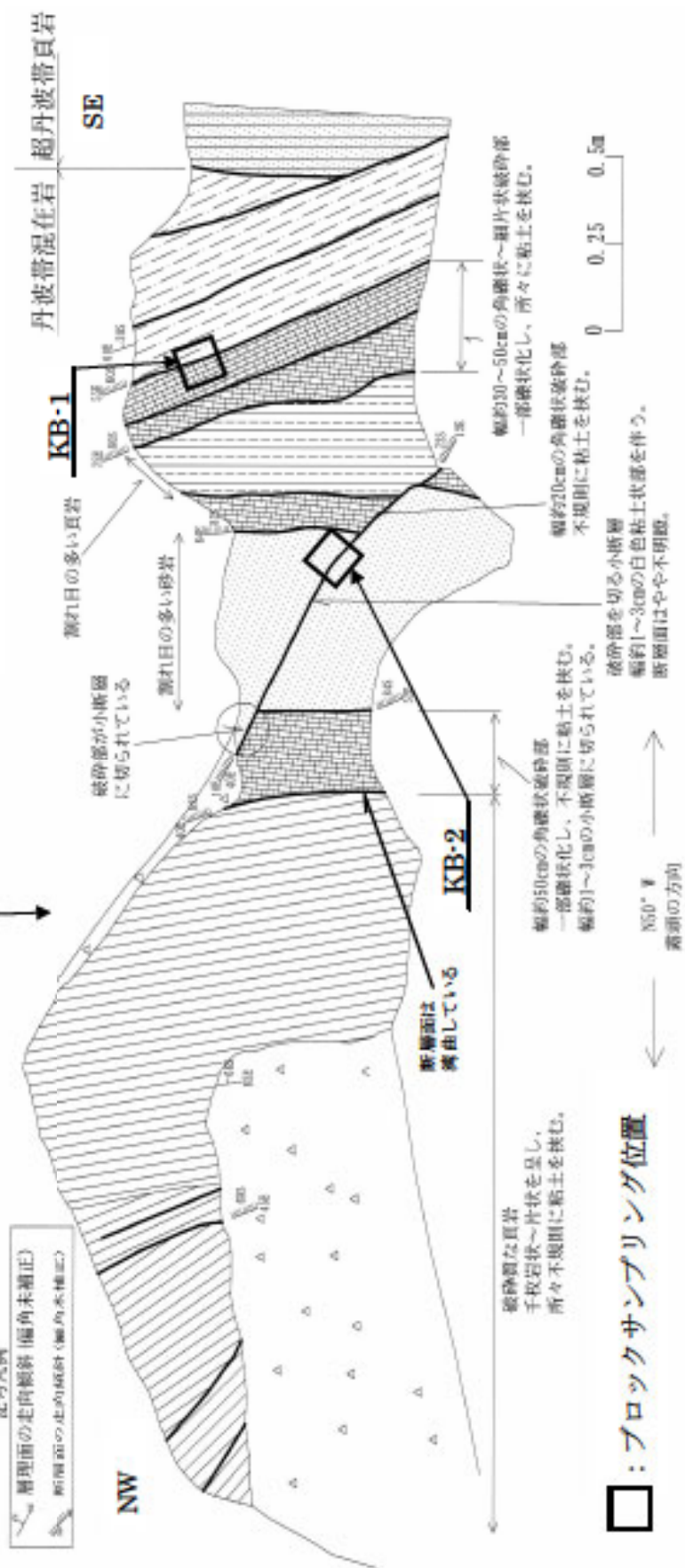
第 3.2.16 図 上林川断層 条線観察結果 (Loc. 2)



露頭 (Loc.4) 周辺の地質図

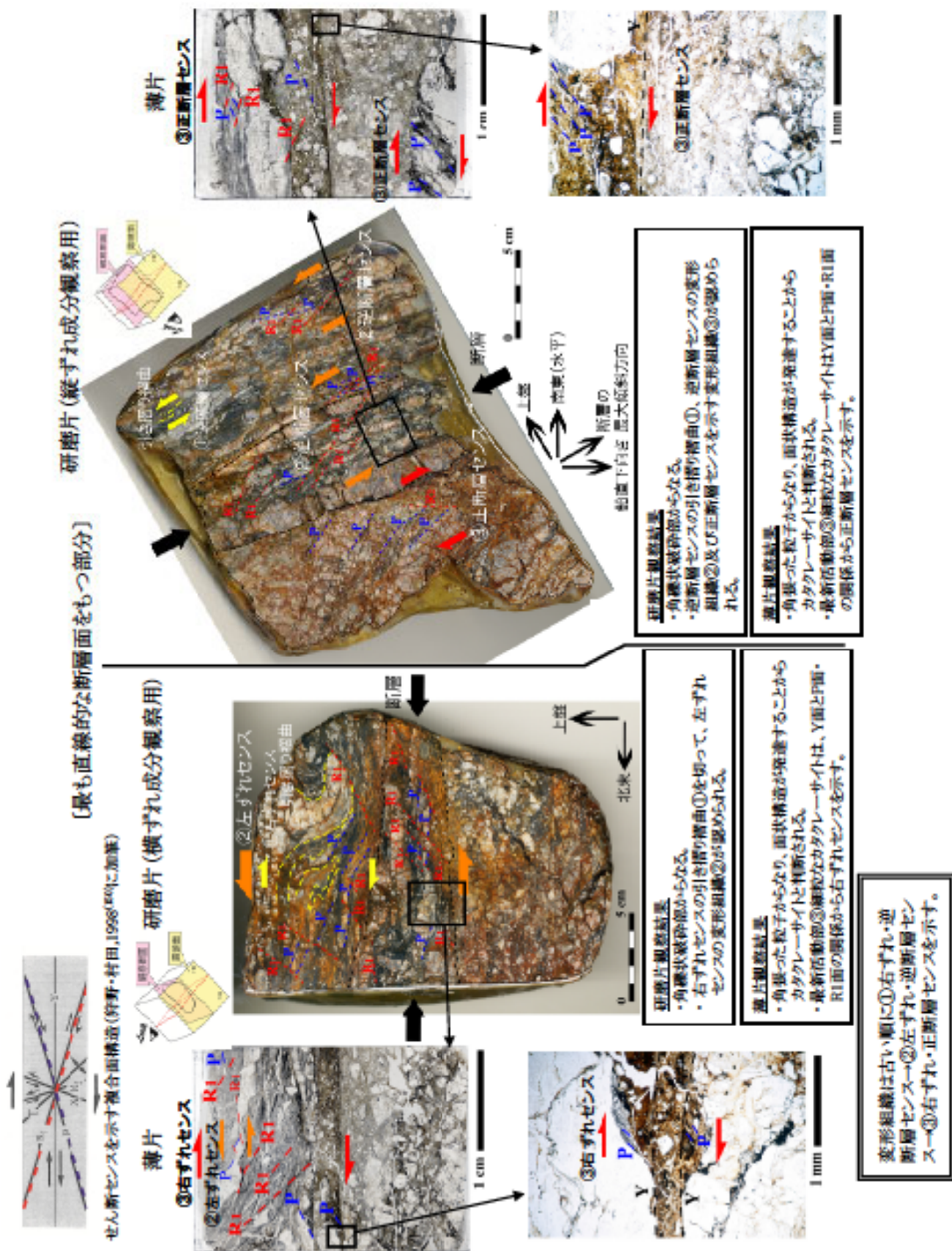
地質凡例

第四系	超丹波帯
a: 沖積層及び新期間状地塊積物	Hk: 水上層 (砂岩主体)
t: 段丘地塊積物	Ol: 大坂層 (頁岩主体)
丹波帯中・古生層	Kz: 上月層 (緑色岩類及び泥質混在岩)
雲ヶ尾コンプレックス	真鍮帯夜久野オオフィオライト
Kx: 泥質混在岩及び頁岩	Ygs: 緑色岩類
Ks: 砂岩	Ygb: 変斑れい岩
Kc: チャート	Yu: 超基性頁岩類
Kg: 緑色岩類	
岡山コンプレックス	
Sx: 泥質混在岩及び頁岩	
Sc: チャート	

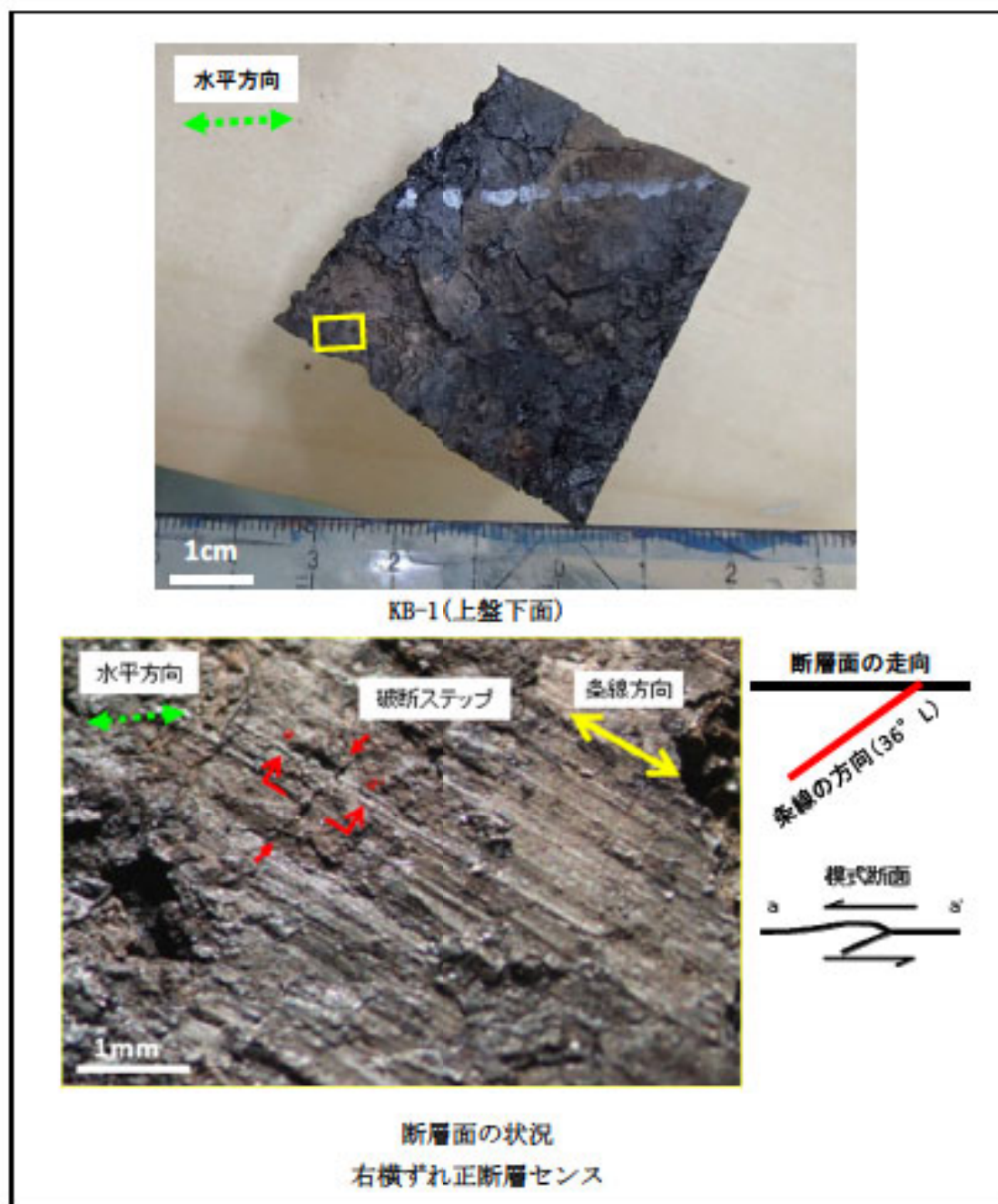


□: ブロックサンプリング位置

第 3.2.18 図 上林川断層 露頭スケッチ (Loc. 4)

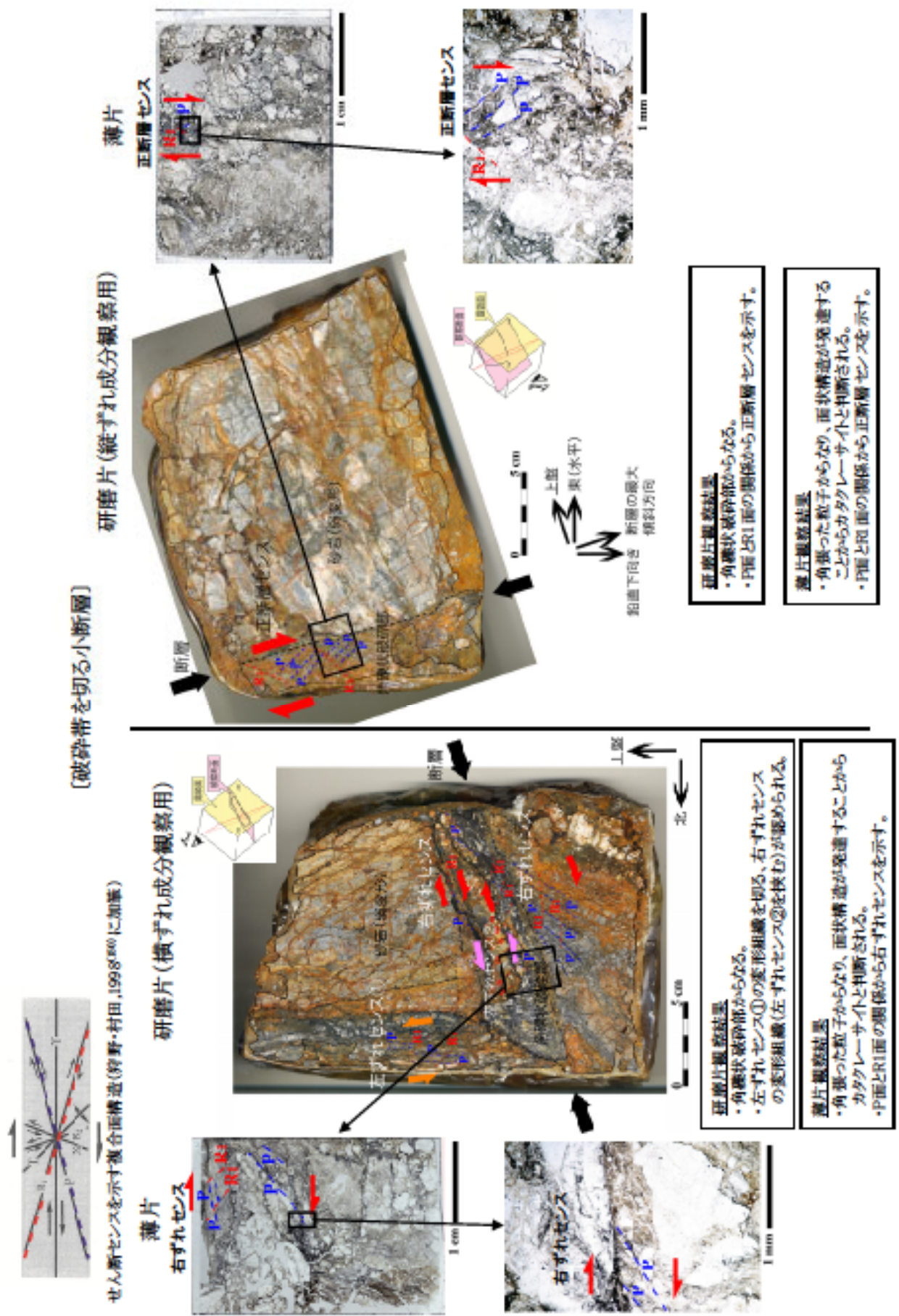


第 3.2.19 図 上林川断層 研磨片・薄片観察結果 (Loc. 4, KB-1 試料)

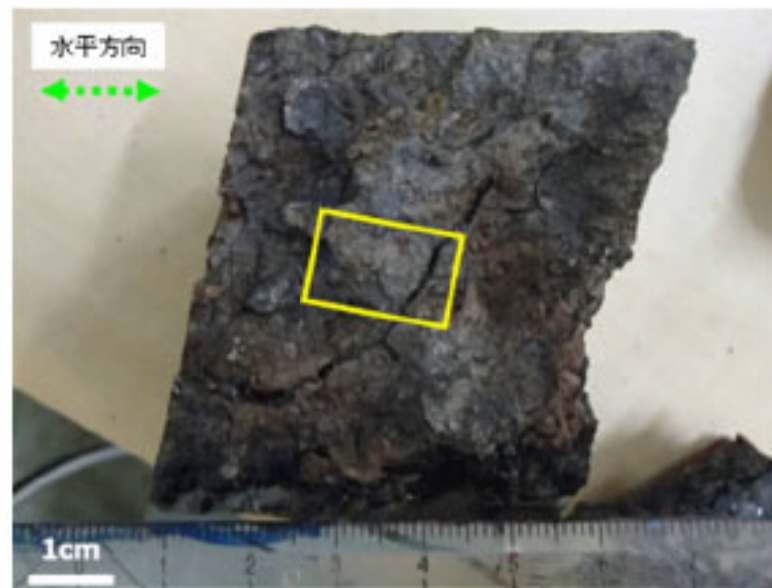


- ・条線観察の結果、条線のレイクは36° Lであり、右横ずれ正断層センスが読み取れた。
- ・これは、現在の広域応力場における上林川断層主部の運動センス（右横ずれ逆断層センス）とは調和しない。

第 3. 2. 20 図 上林川断層 条線観察結果(Loc. 4, KB-1 試料)



第 3.2.21 図 上林川断層 研磨片・薄片観察結果 (Loc. 4, KB-2 試料)



KB-2(下盤上面)



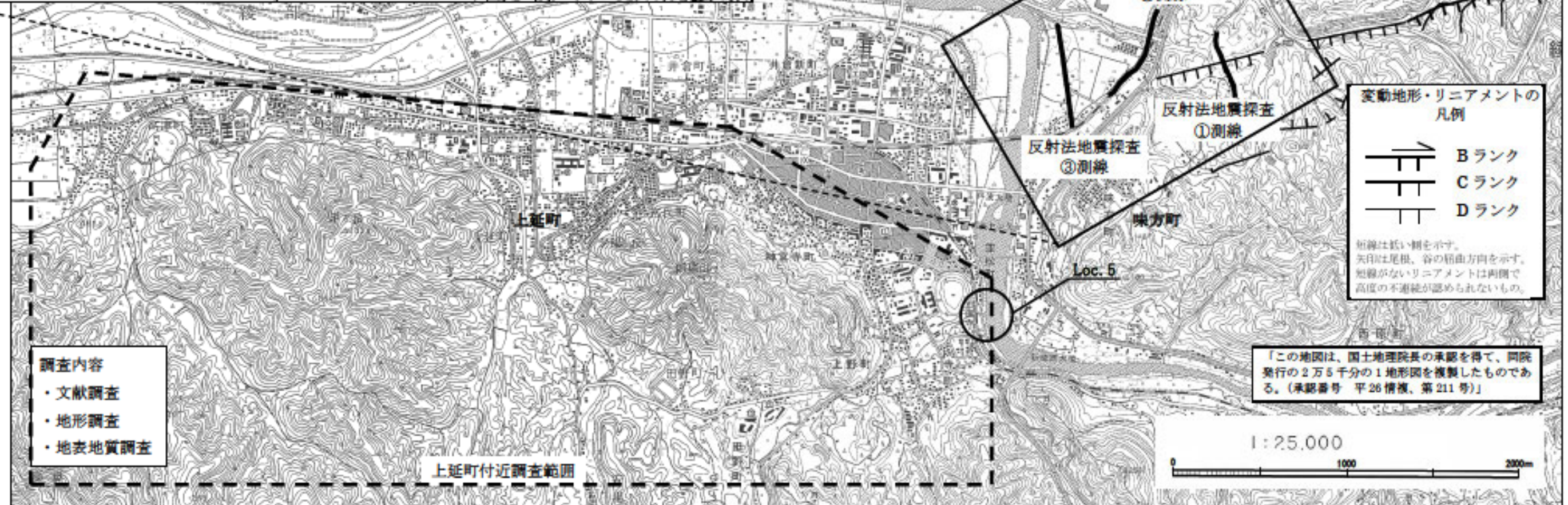
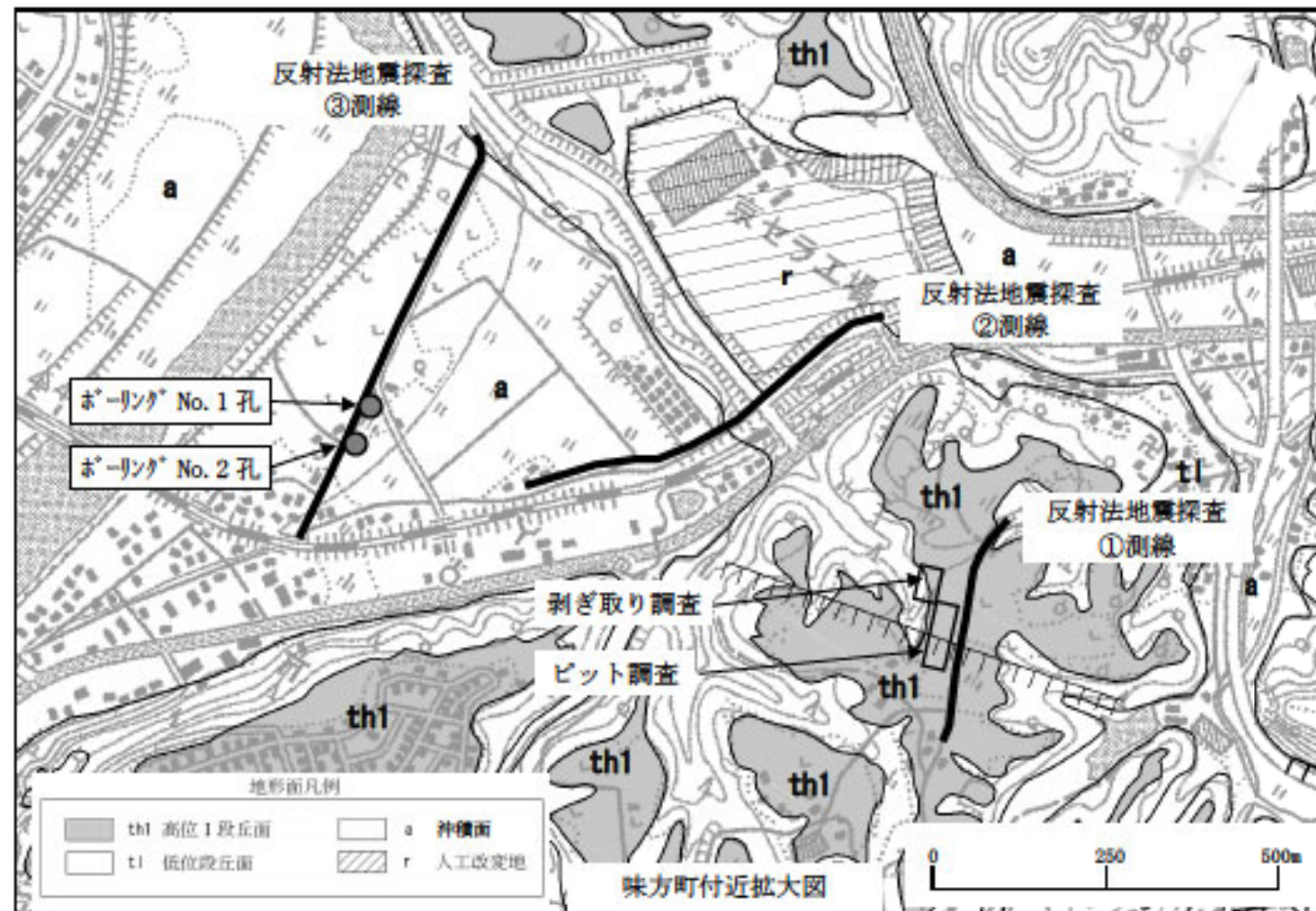
断層面の状況
条線は認められない

条線観察の結果、小断層の断層面に条線は認められなかった。

第 3. 2. 22 図 上林川断層 条線観察結果(Loc. 4, KB-2 試料)

反射法地震探査の主な仕様

項目	内容		
	①測線	②測線	③測線
測線名	①測線	②測線	③測線
波動種別	S波	P波	P波
調査測線長	360m	594m	595m
解析測線長	357m	588m	591m
発信点間隔	1.0m	2.5m	2.5m
受信点間隔	1.0m	5.0m	5.0m



調査内容
 ・文献調査
 ・地形調査
 ・地表地質調査

変動地形・リニアメントの凡例
 Bランク
 Cランク
 Dランク
 短線は低い側を示す。
 矢印は尾根、谷の積曲方向を示す。
 短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

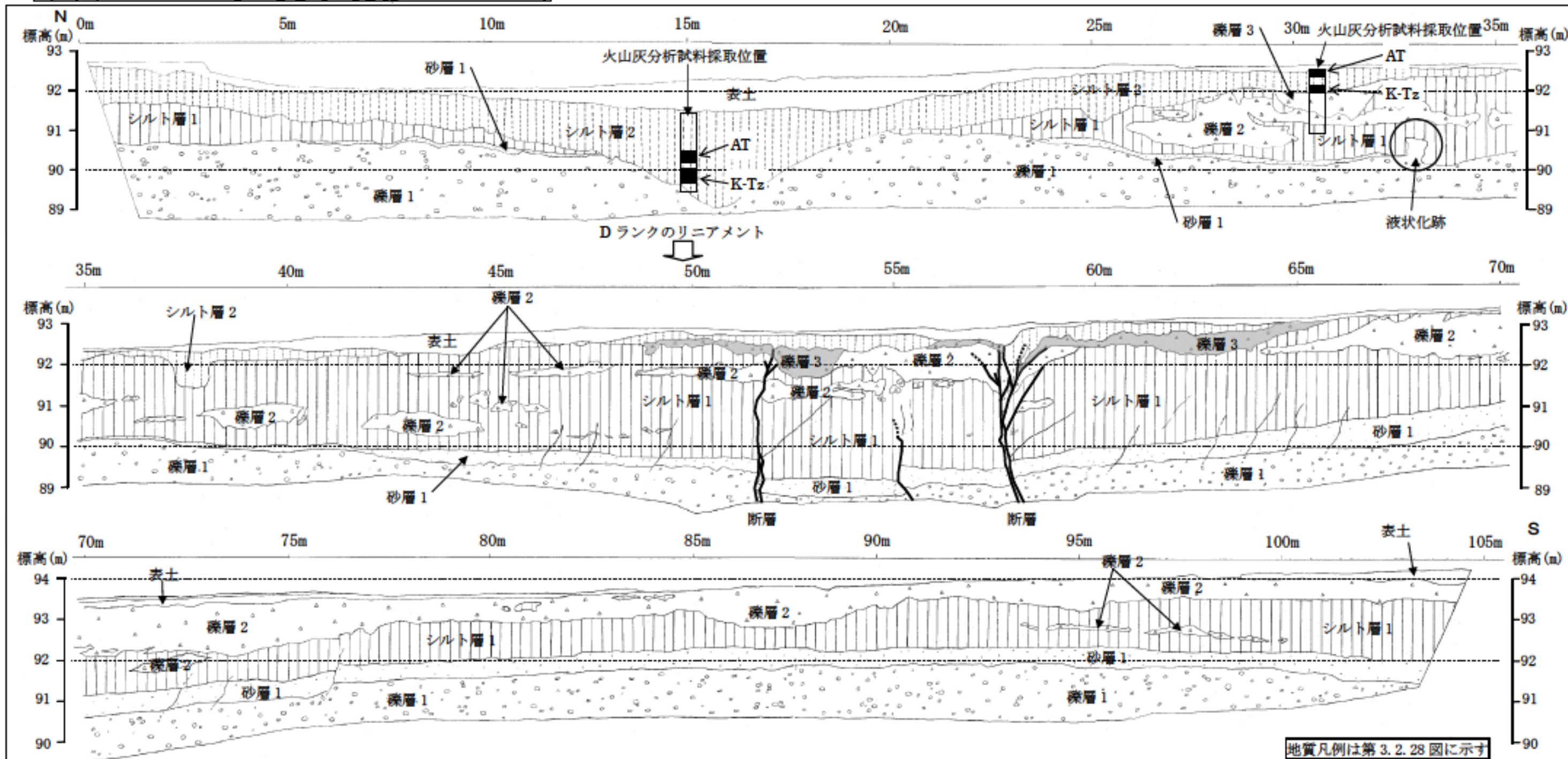
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」

第3.2.23図 上林川断層 綾部市味方町～上延町付近の調査位置図

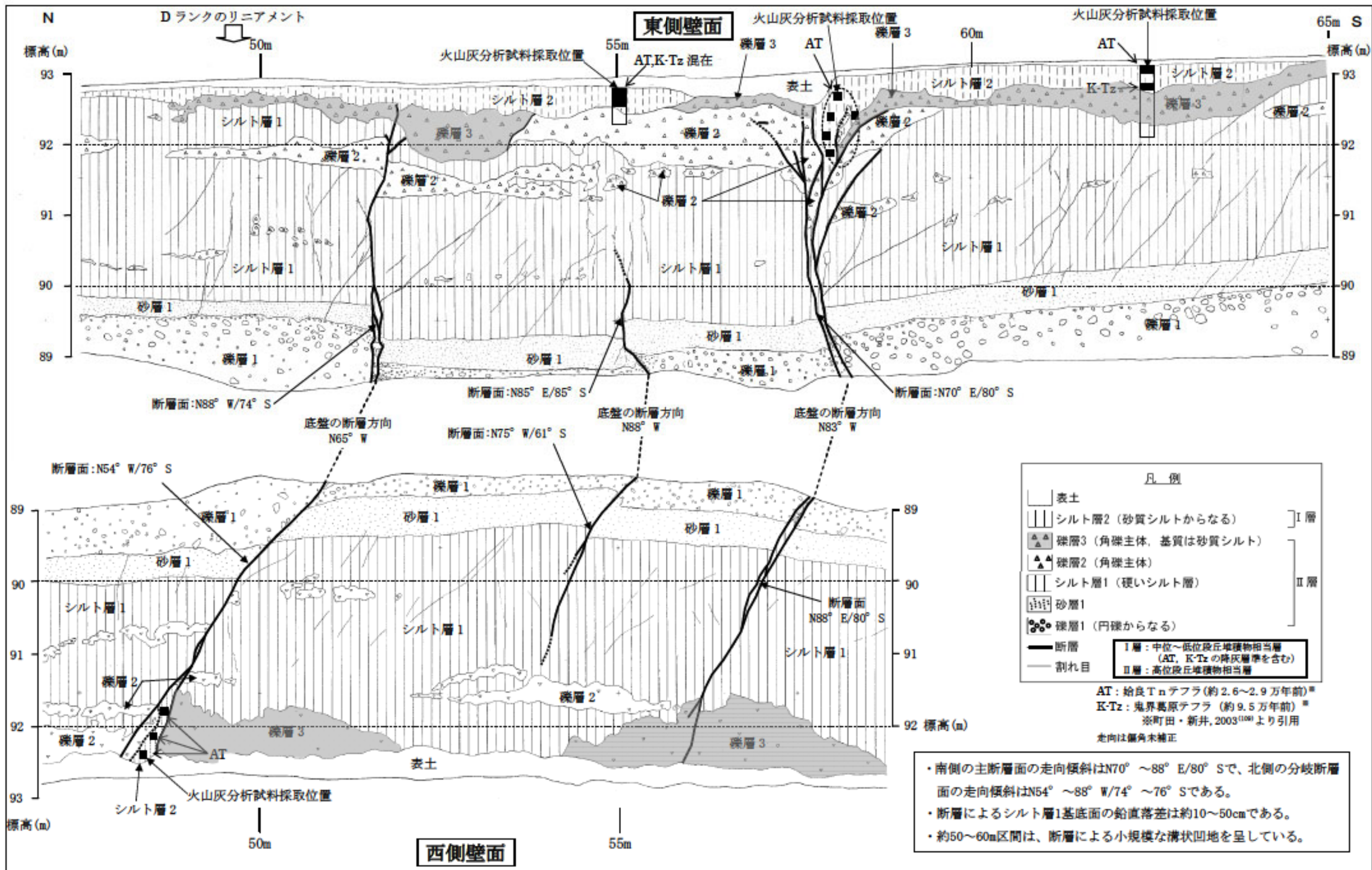


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」

- ・標高約90～95mの高位段丘面において、約100m区間のピット調査を実施した。
- ・壁面にはI層、II層の2層が分布する。下部のII層は堆積物の色相や周辺露頭との対比、火山灰分析結果から高位段丘堆積物相当層と想定される。I層はII層を不整合に覆い、中位～低位段丘堆積物相当層〔始良T_nテフラ(AT)：約2.6～2.9万年前、鬼界葛原テフラ(K-Tz)：約9.5万年前(町田・新井, 2003^{①②})の降灰層準を含む〕である。
- ・Dランクのリニアメント判読位置付近(約50～60m区間)には3条の断層があり、南の断層はI層まで変位を与えている(詳細は第3.2.28図に示す)。
- ・II層の砂層1基底面及びシルト層1基底面は、共に断層の南側に北側に比べて約1～2m隆起し、撓んだ構造を示す。
- ・II層のシルト層1が断層付近で厚くなることから、II層堆積時に断層運動があったと想定される。さらにII層のシルト層1下部に液状化跡と思われる箇所(約32.5m地点)が認められる。



第3.2.27図 上林川断層 ピット調査箇所東側壁面全体スケッチ

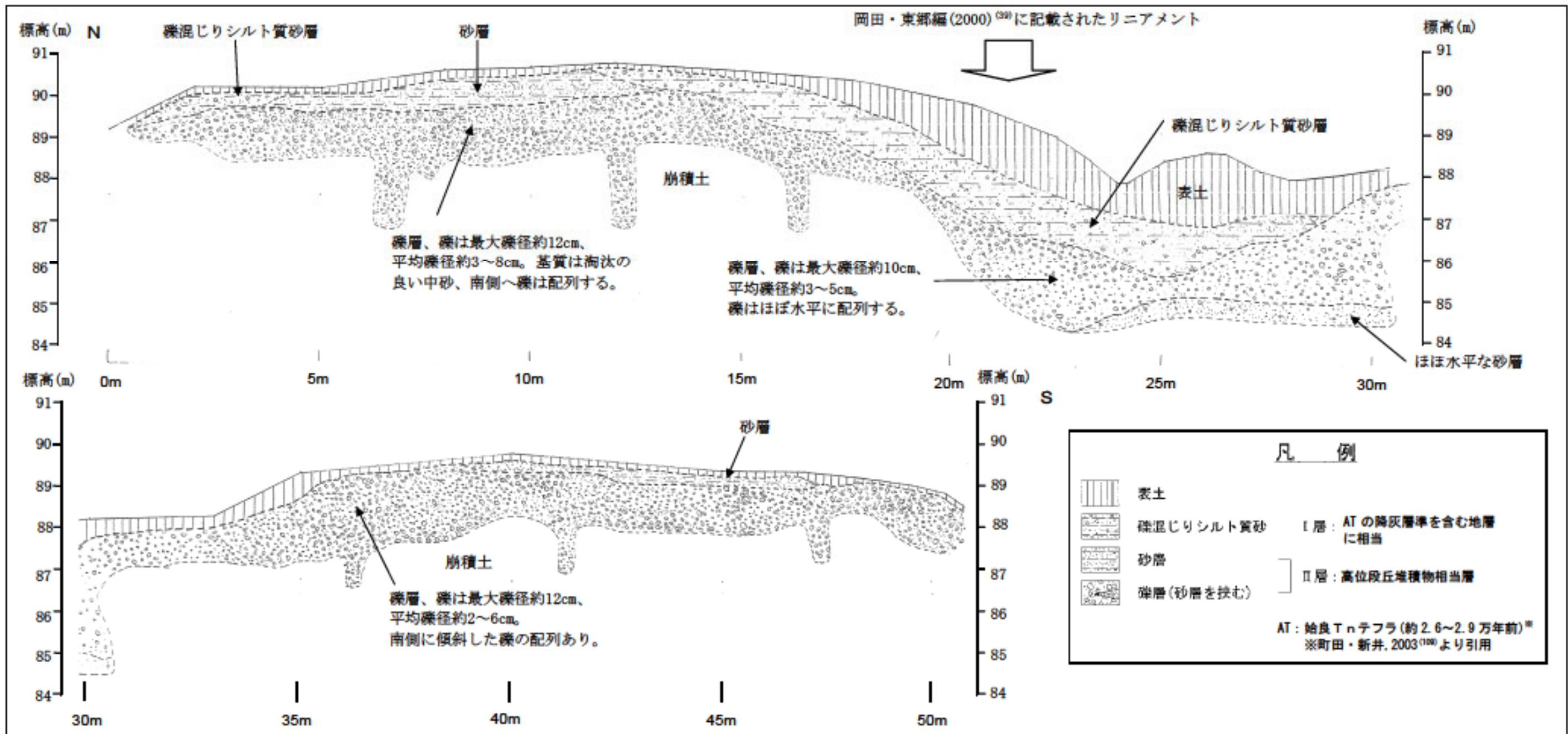


第3.2.28図 上林川断層 ビット調査箇所断層付近展開図

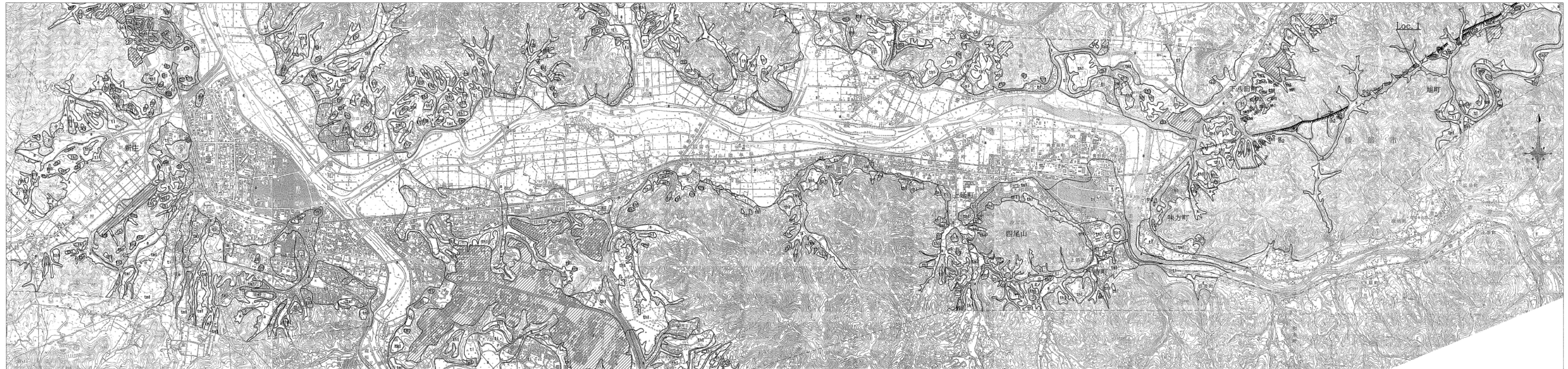


岡田・東郷編(2000)⁽³⁹⁾に記載されたリニアメント付近は、河川により削利された凹地状地形を呈するが、下位の礫層（高位段丘堆積物相当層）はほぼ水平に連続して堆積し、断層による礫の再配列は認められない。また、上記リニアメントを挟んで砂層基底標高に優位な高度差は見られない。よって岡田・東郷編(2000)⁽³⁹⁾のリニアメント記載位置の高位段丘堆積物相当層には、断層を示唆する変位・変形は認められない。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



第3.2.29図 上林川断層 剥ぎ取り調査箇所スケッチ



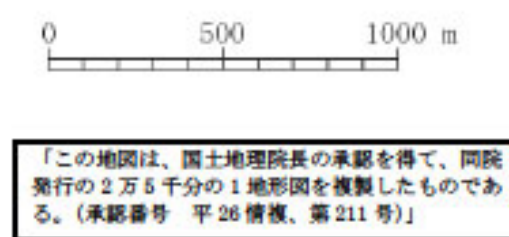
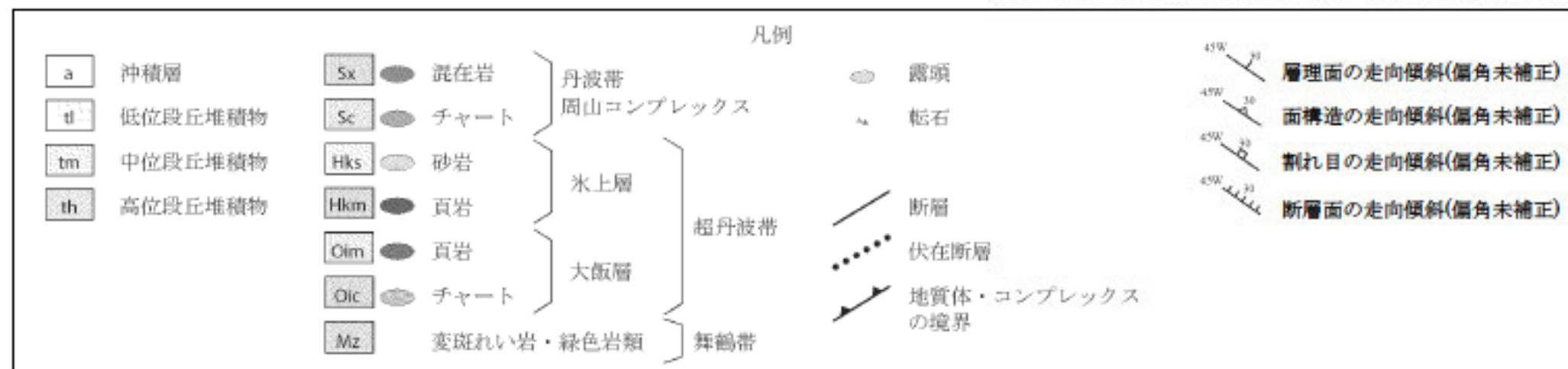
「この地図は、国土院院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平28様復、第11号)」

- 変換地形・リニアメントの凡例**
- Bランク
 - Cランク
 - Dランク
- 地籍の無い地を示す。
○ 地籍のある地を示す。
□ 地籍がない・リニアメントは両取で規定の半線幅で敷設されるもの。
- 谷の屈曲
Loc 詳細調査位置
(ルートマップ、スケッチ等)
- 表示範囲

地形面の凡例

h1	高位I段丘面	h1	低位段丘面
h2	高位II段丘面	h1	最終位段丘面(地新設)
h3	中位I段丘面	f	新形成伏地面
h2	中位II段丘面	e	沖積面
			人工改変地

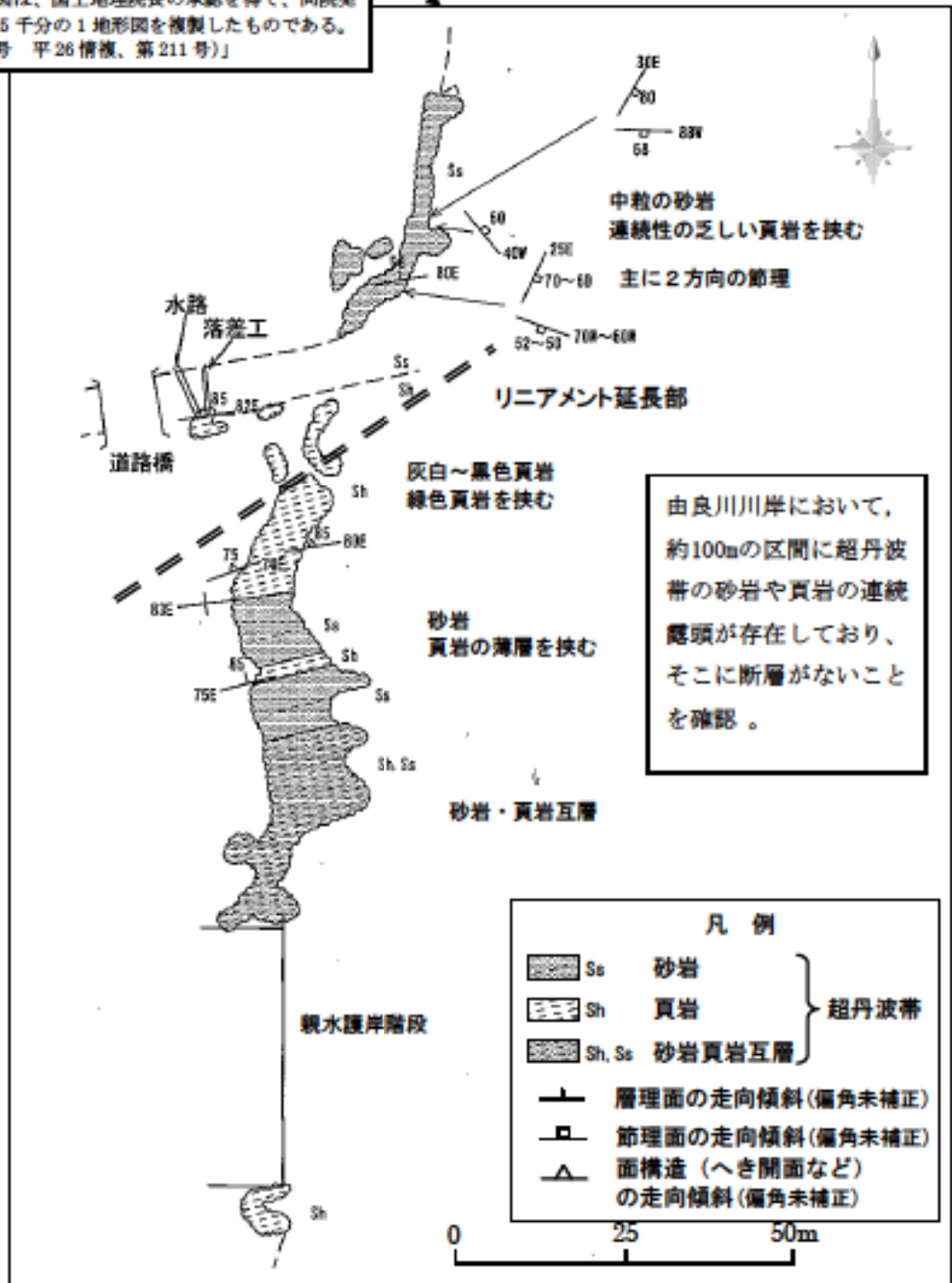
第3.2.30図 上林川断層 綾部市旭町～福知山市新庄付近の地形調査結果 6-3-249



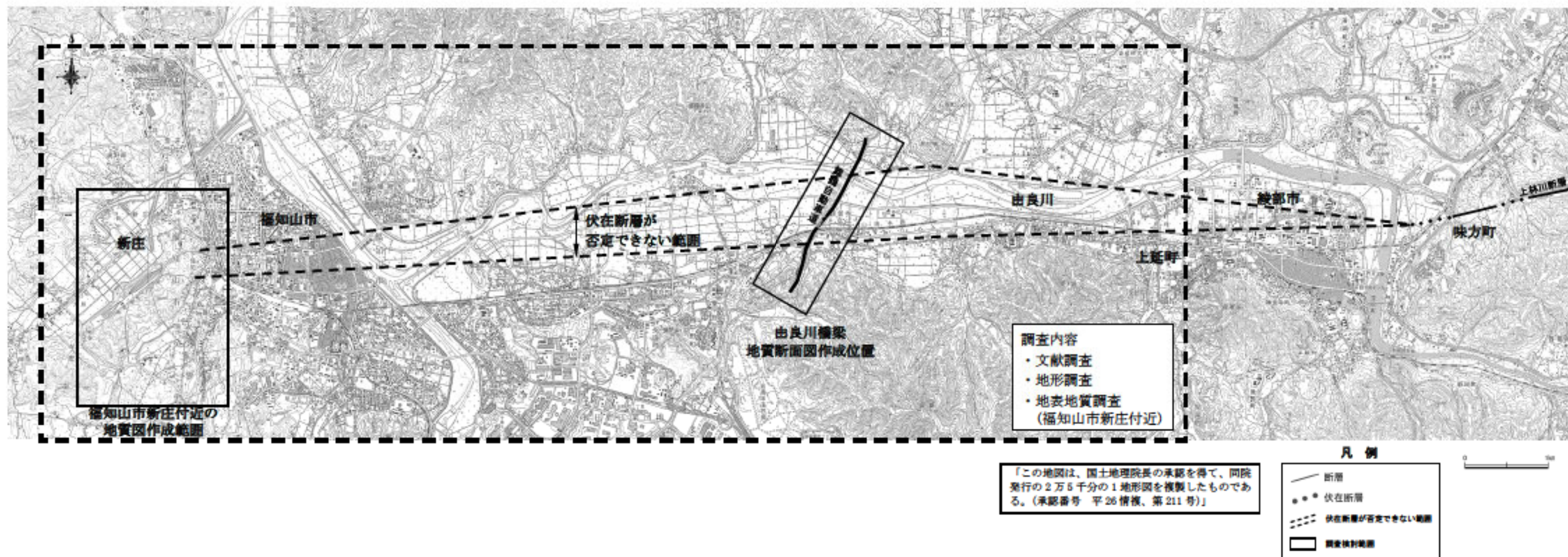
第 3.2.31 図 上林川断層 綾部市上延町付近の地質図



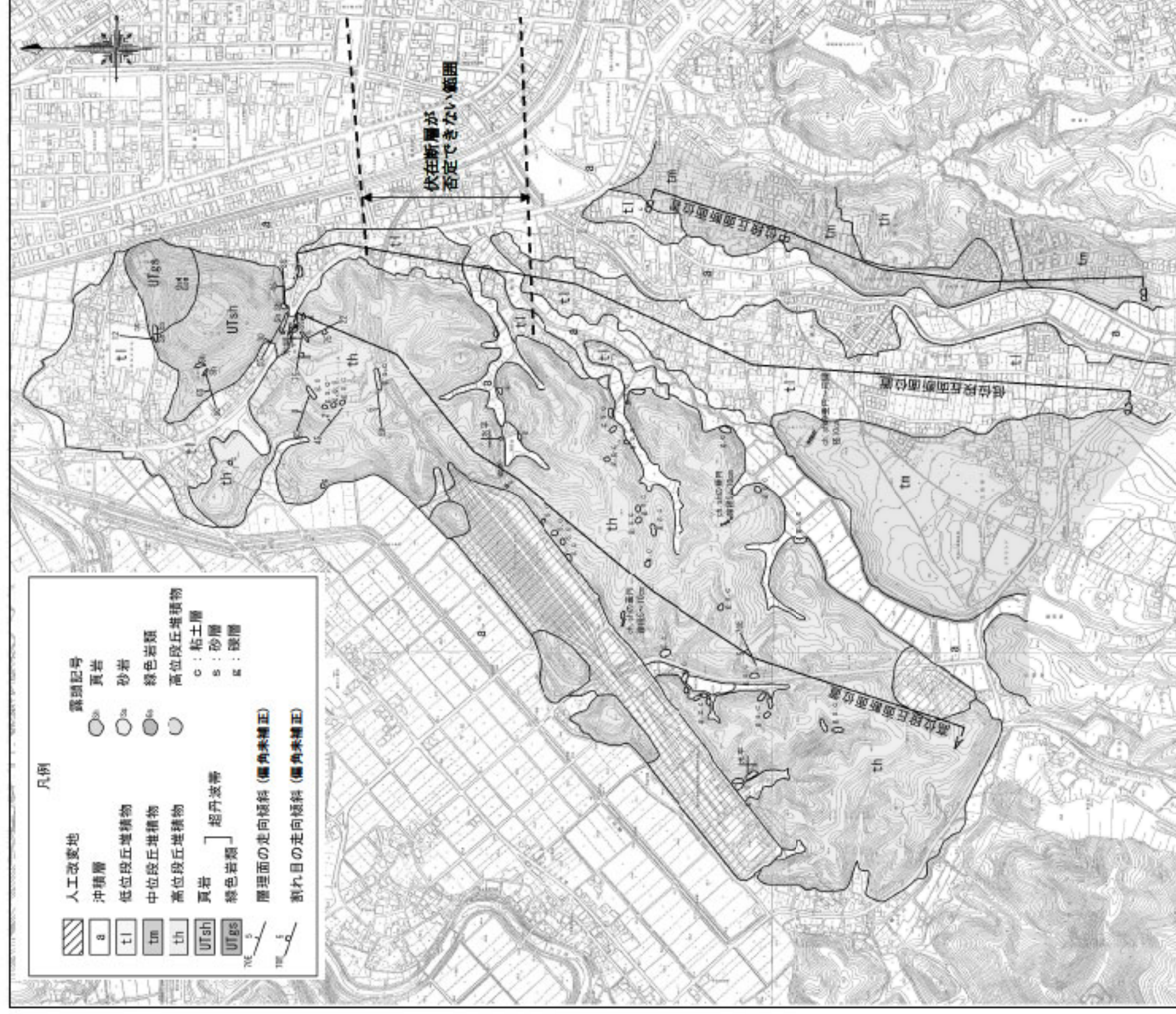
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」



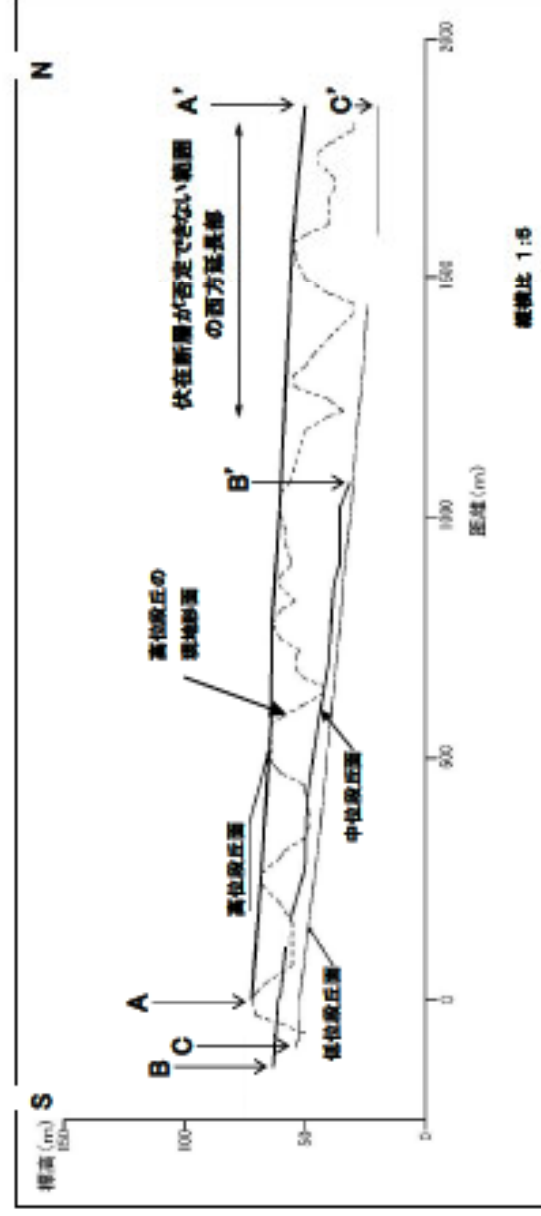
第3.2.32図 上林川断層 ルートマップ(Loc.5)



第 3.2.33 図 上林川断層 綾部市上延町～福知山市新庄付近の調査位置図



福知山市新庄付近の地質図



福知山市新庄付近の段丘縦断面図

第 3.2.34 図 上林川断層 福知山市新庄付近の地質図及び段丘縦断面図

ほぼ東西方向に広がる由良川の沖積低地に伏在する断層の存在が否定できないことから、西方延長部の新庄付近で地形調査と地表地質調査等を実施した。広い範囲の露頭はないもの、次に示すデータから断層が存在しないと判断した。

①高位段丘や低位段丘の現地形面を連ねた段丘面は非常に緩く北傾斜を示し、断層による高度不連続は認められない。

②地表地質調査から高位段丘を構成する地層の層理面は全域で緩く北に傾斜し、地質構造(走向傾斜)には有意な変化は認められない。また、層理面は地形面(堆積面)から推定される傾斜と調和的である。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

地形面の凡例	
tm	中位段丘面
t11	低位Ⅰ段丘面
t12	低位Ⅱ段丘面
t13	低位Ⅲ段丘面
of	古期扇状地面
f	新期扇状地面
a	沖積面

変動地形・リニアメントの凡例	
	Bランク
	Cランク
	Dランク
	谷の屈曲
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

第3.2.36図 熊川断層周辺の地形調査結果



1:25,000
0 500 1000m

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」

凡例

——	断層
-----	伏在断層
- - - -	推定断層
▲▲▲▲	地質体・コンプレックスの境界
✱	アンチフォーム
✱	シンフォーム
——	地質境界
80°	層理面の走向傾斜(偏角未補正)
55E 80°	面構造(へき開面など)の走向傾斜(偏角未補正)
55E 80°	割れ目(節理面など)の走向傾斜(偏角未補正)
55E 80°	断層面の走向傾斜(偏角未補正)
Loc	詳細調査位置(ルートマップ、スケッチ等)
□	表示範囲

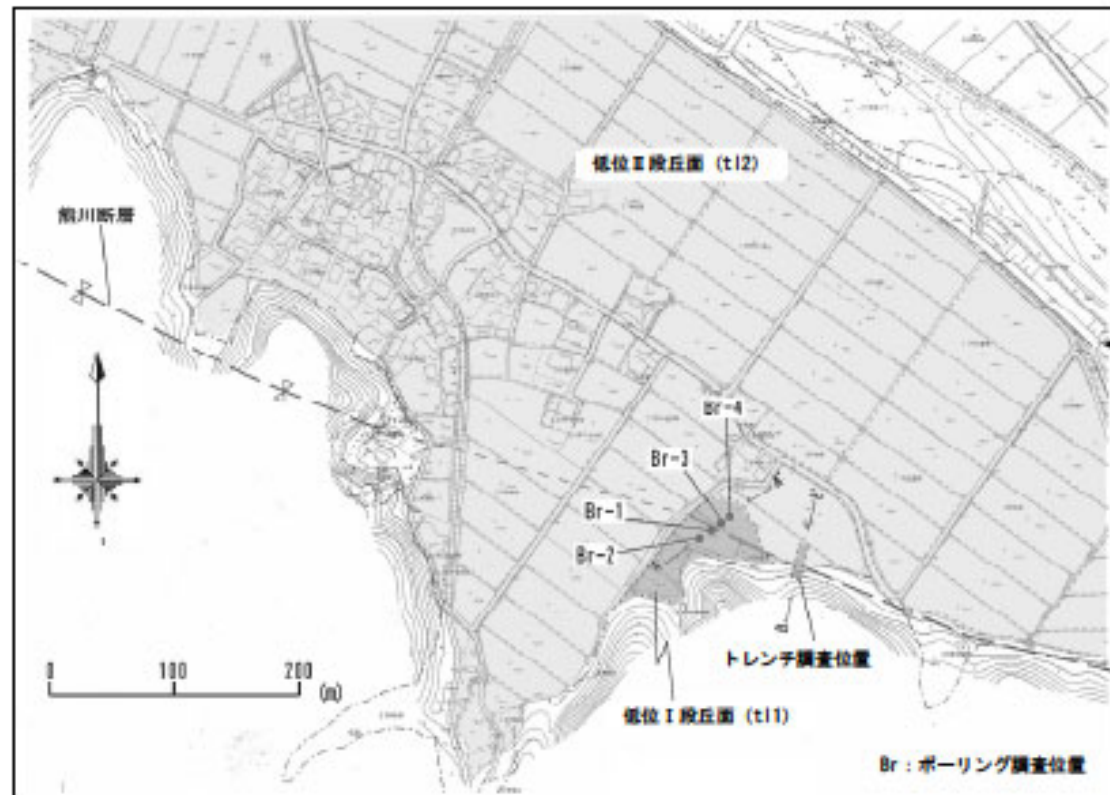
第四紀	沖積層	a	礫、砂及び泥
	新期扇状地堆積物	f	礫、砂及び泥
	古期扇状地堆積物	of	礫、砂及び泥
	低位Ⅲ段丘堆積物	t13	礫、砂及び泥
	低位Ⅱ段丘堆積物	t12	礫、砂及び泥
更新世	低位Ⅰ段丘堆積物	t11	礫、砂及び泥
	中位段丘堆積物	tn	礫、砂及び泥

凡例

第四紀	沖積層	Fu	砂岩・頁岩・砂質頁岩互層
		Tx	泥質混在岩及び頁岩
	新期扇状地堆積物	To	チャート
		Hx	泥質混在岩及び頁岩
	古期扇状地堆積物	Hc	チャート、珪質粘土岩・珪質頁岩を伴う
		Hg	緑色岩類
	低位Ⅲ段丘堆積物	Hl	石灰岩
		Kx	泥質混在岩及び頁岩
	低位Ⅱ段丘堆積物	Ks	砂岩
		Kc	チャート
低位Ⅰ段丘堆積物	Kg	緑色岩類	
	Sx	泥質混在岩及び頁岩	
中位段丘堆積物	Ss	砂岩	
	Sc	チャート	
	Sg	緑色岩類	

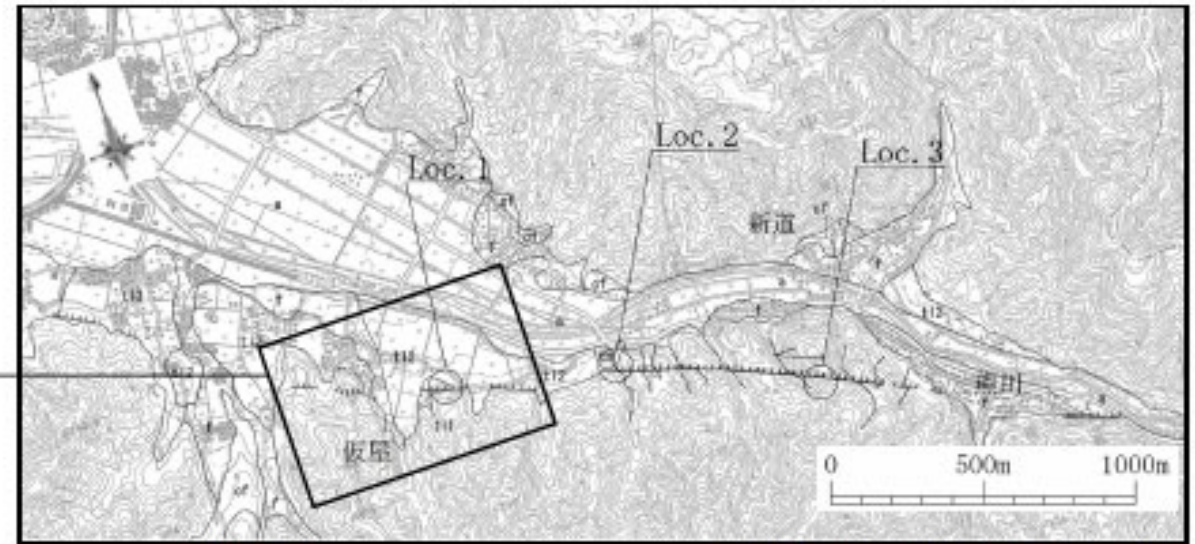
ジュラ紀 丹波帯

第3.2.37図 熊川断層周辺の地質図
6-3-256



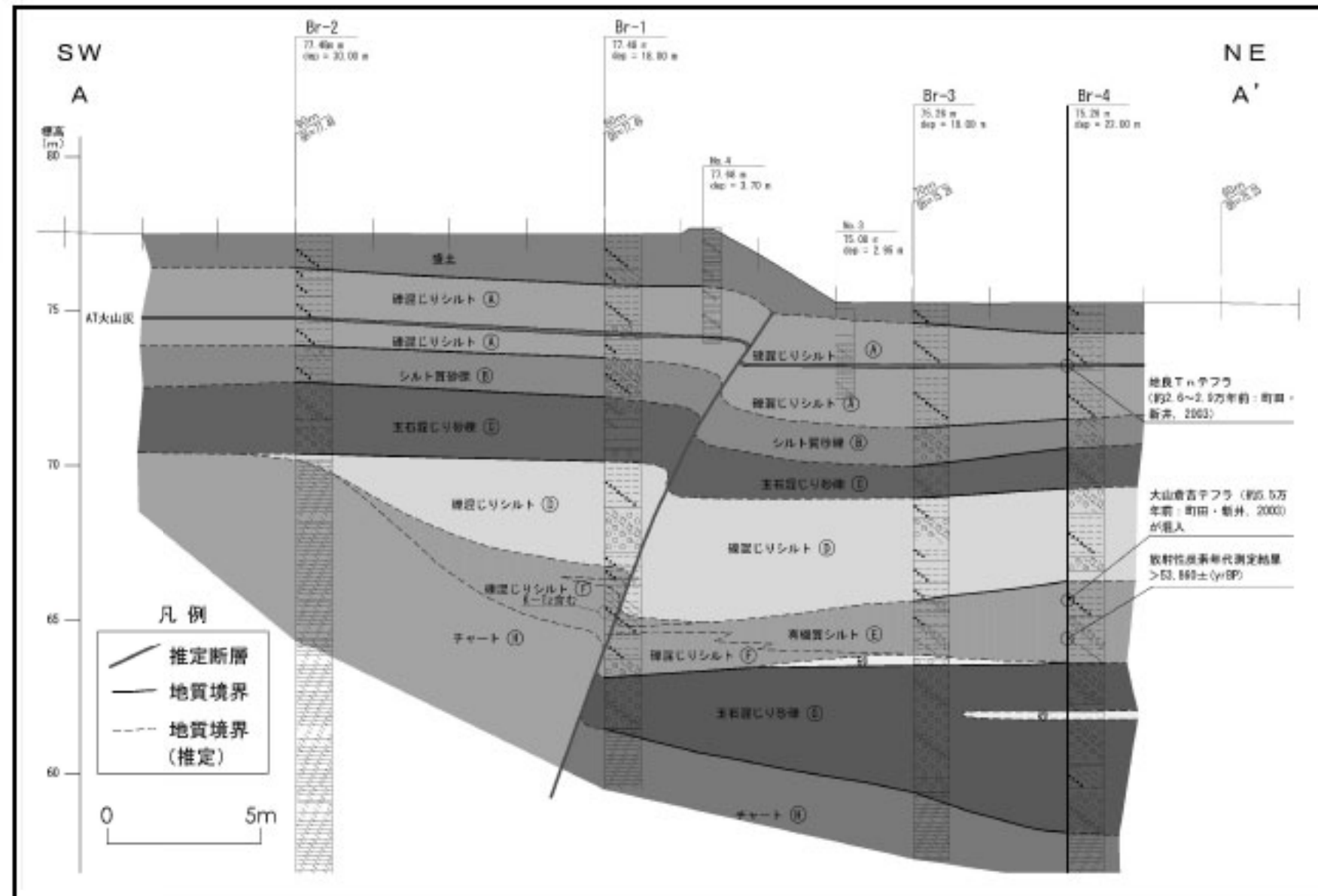
トレンチ・ボーリング調査位置図

仮屋東南の低位Ⅰ段丘面上の低崖においてボーリング調査を実施した。ボーリング調査の結果、Br-1の礫混じりシルト層中に見かけの傾斜角が約70°の断層面を確認し、始良Tnテフラ(AT)の純層に約1.5mの南側隆起の変位を確認した。



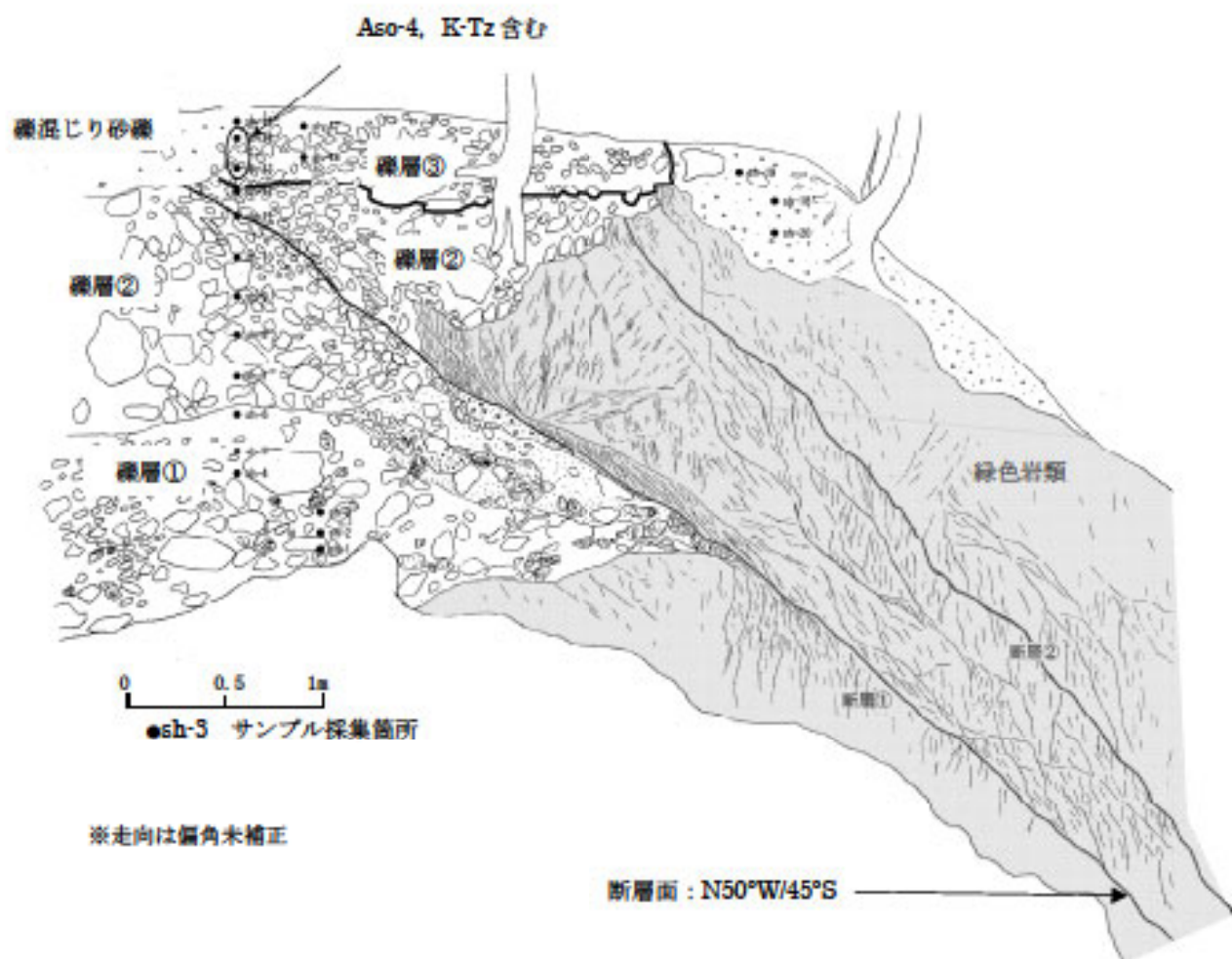
調査位置図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情複、第211号)」



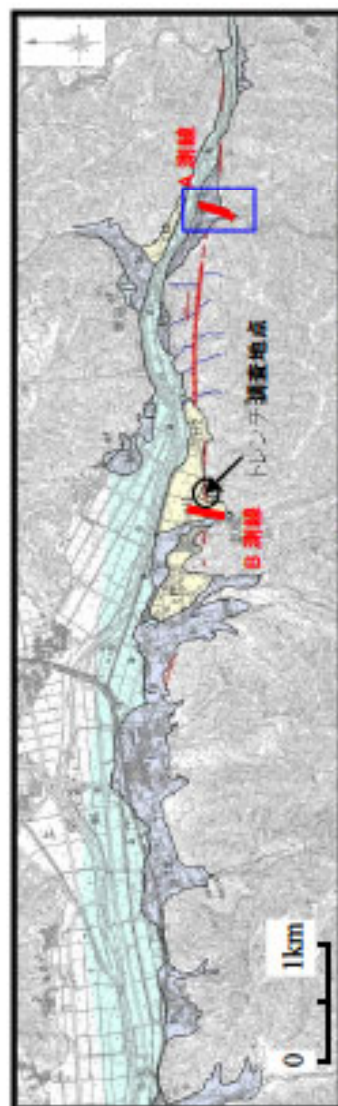
地質断面図

第 3.2.38 図 熊川断層 トレンチ調査・ボーリング調査位置図及び地質断面図 (Loc. 1)



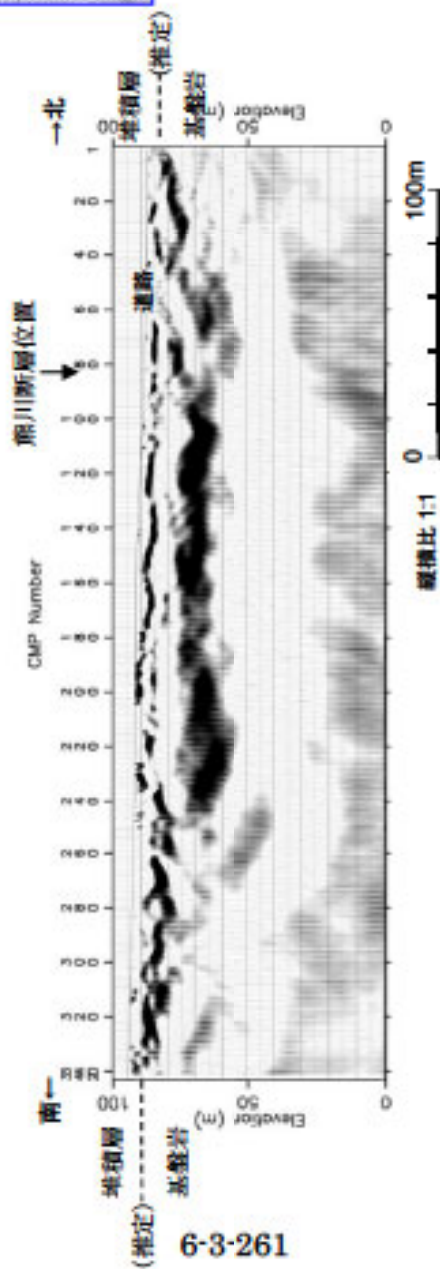
- ・緑色岩類と礫層が断層関係で接している。
- ・緑色岩類は全体に亀裂が発達しており、断層の近くでは軟質になっていることが多い。
- ・断層①の代表的な走向傾斜は N50° W/45° S で、熊川断層のリニアメントとはやや斜交している。
- ・断層①では、幅数 mm の黄褐色粘土が認められ、断層面は明瞭である。
- ・断層沿い（上盤側）の幅約 10～20cm の範囲では、緑色岩類の破砕が著しく礫状となっている。
- ・礫層①は、砂岩及び緑色岩類のくさり礫を含む礫層である。礫層②は緑色岩類やチャートの新鮮な礫を含んでいる。
- ・断層①は、礫層①及び礫層②を変位させており、礫層②の断層延長部では、礫の定向配列が確認できる。
- ・礫の定向配列は、礫層②では上部まで認められるが、礫混じり砂層には影響は及んでいない。
- ・礫層③からは、鬼界高原テフラ (K-Tz) と阿蘇 4 テフラ (Aso-4) が確認され、礫層③は中位段丘相当層であると考えられるが、礫層③と断層の関係は不明である。

第 3.2.40 図 熊川断層 露頭スケッチ (Loc. 2)

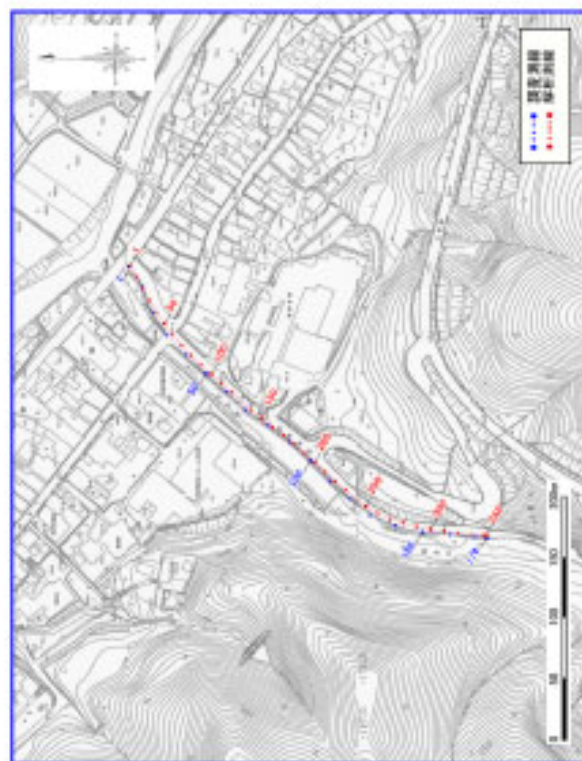
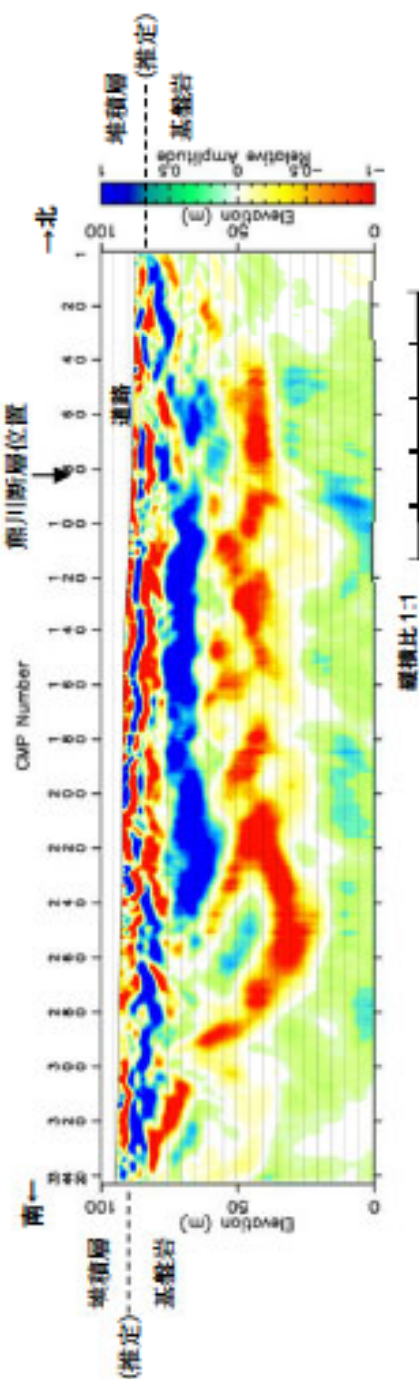


調査位置図

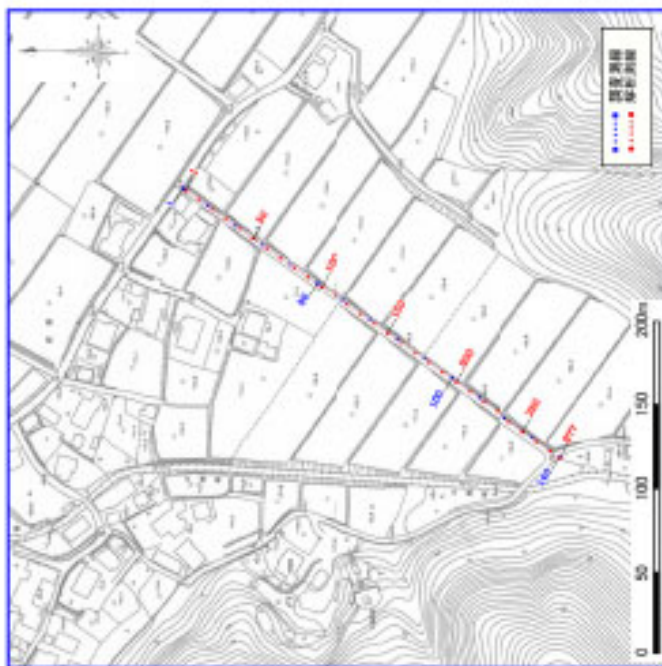
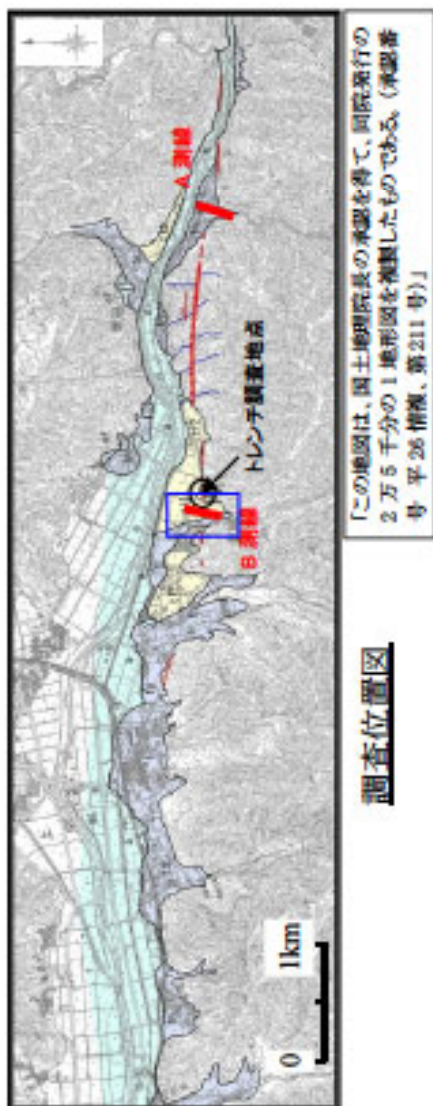
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の
2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番
号 平26情漢、第211号)



6-3-261

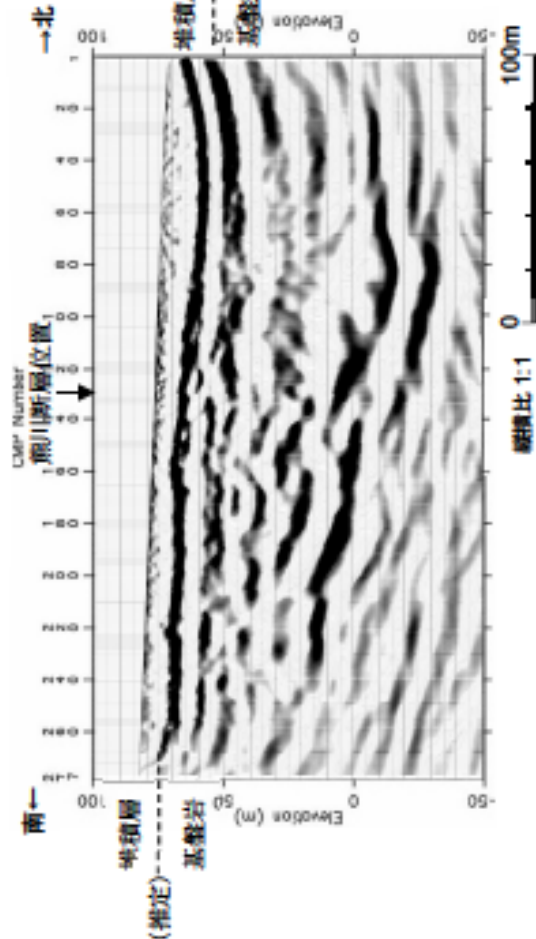


測線配置図

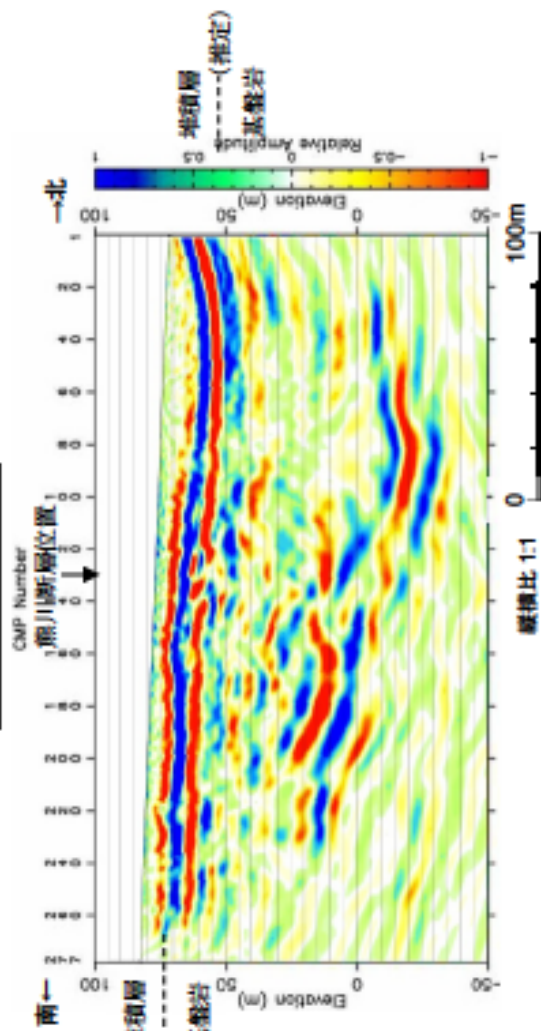


測線配置図

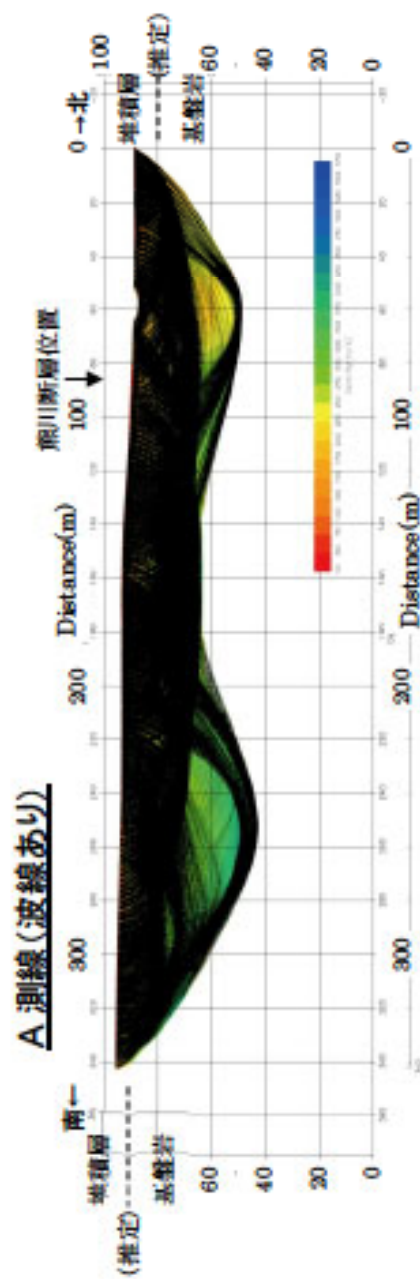
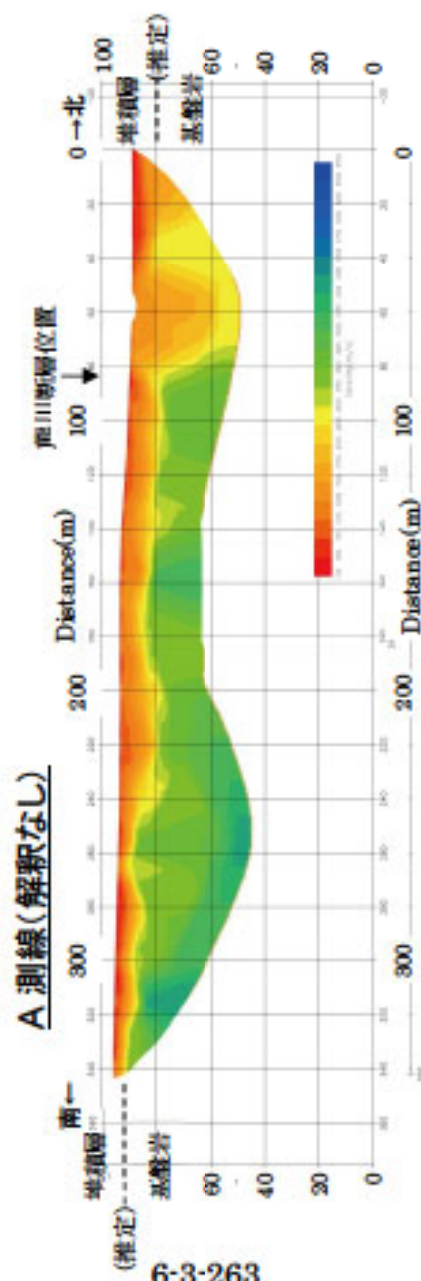
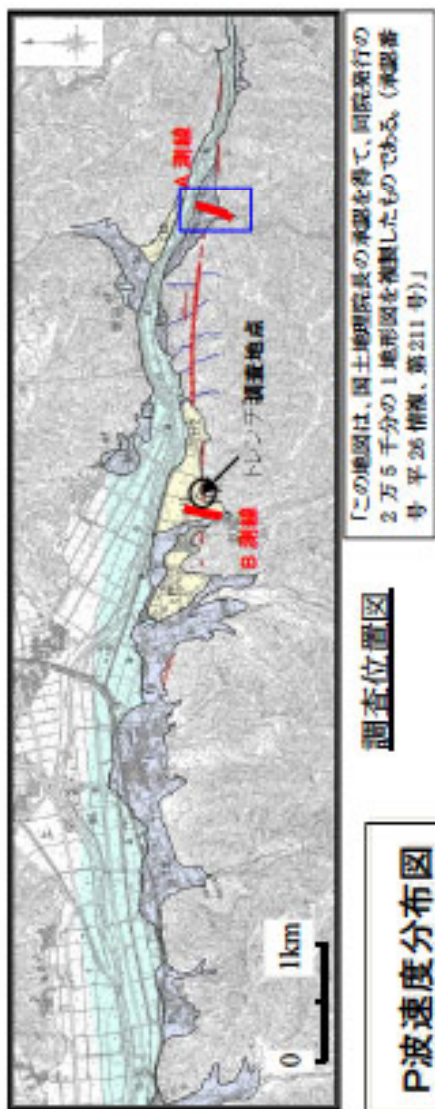
B 測線 (解釈なし)



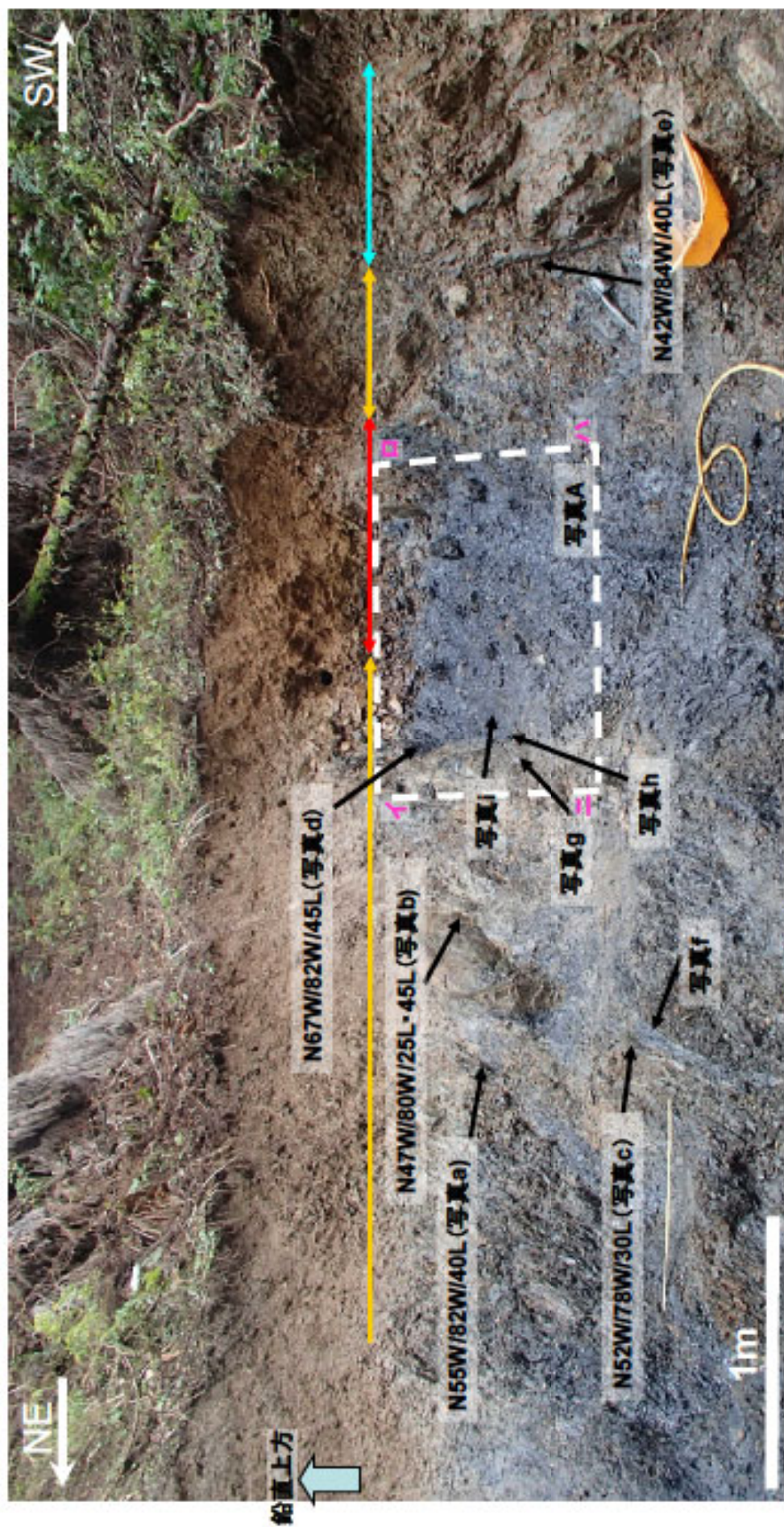
B 測線 (解釈なし)



第 3.2.43 図 熊川断層 反射法地震探査記録 (B 測線)



6-3-263



・ 破砕幅 6m 以上

- ・ 破砕帯を構成する断層岩類: 断層ガウジ, 断層角礫, ウルトラカタクレーサイト, カタクレーサイト, カタクレーサイト, プロトカタクレーサイト
- ・ カタクレーサイトも全体的に粘土化しており, 未固結破砕部近傍ほど顕著である。
- ・ 破砕帯中には連続性のよい断層面が数条認められる。
- ・ 全体的に左横ずれ逆断層 (兩上がり) センスを示す変形指標が認められる (変形指標の観察面の勾配約 25° NW; 認められる条線角度とほぼ同じ)。

第 3. 2. 45 図 熊川断層 露頭全体写真 (Loc. 3)



写真 a 断層面の下盤上面

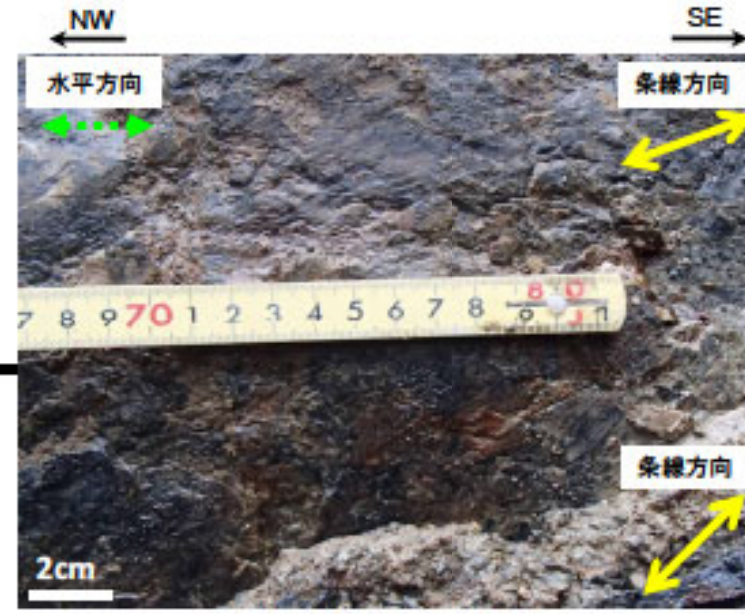


写真 b 断層面の下盤上面

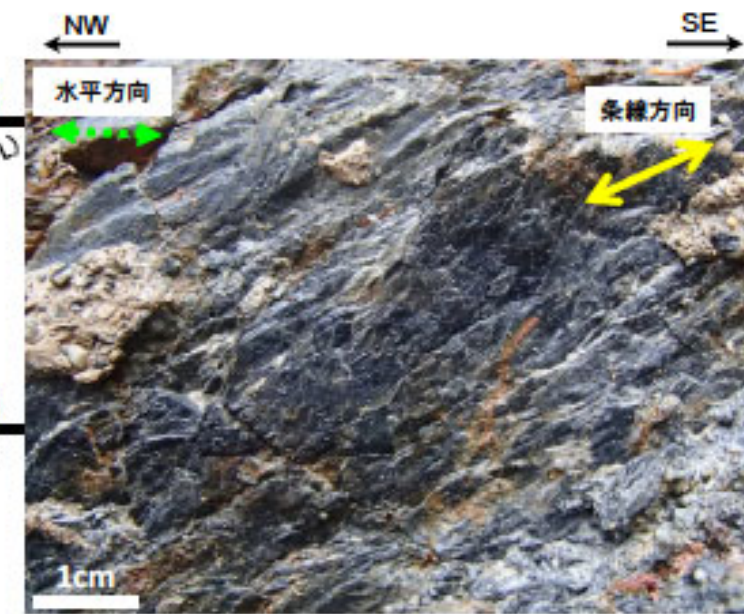


写真 c 断層面の下盤上面

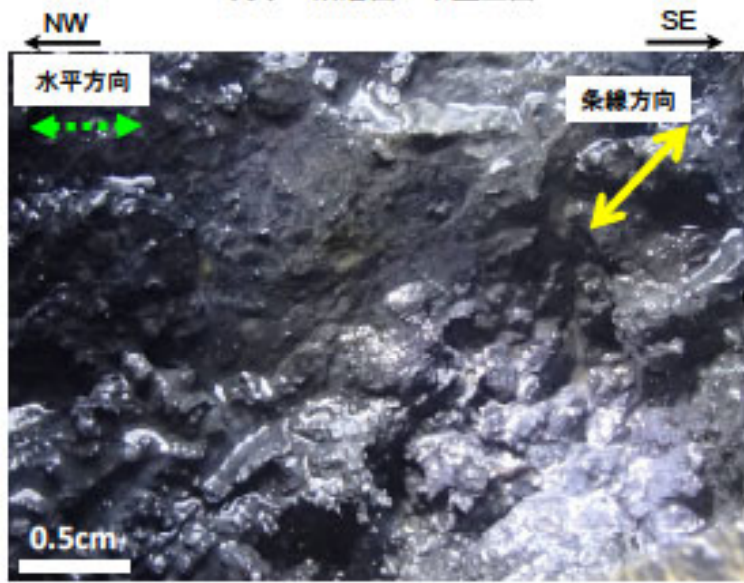


写真 d 断層面の下盤上面
条線はやや不明瞭



写真 e 断層面の上盤下面



写真 f 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す P フォリエーション

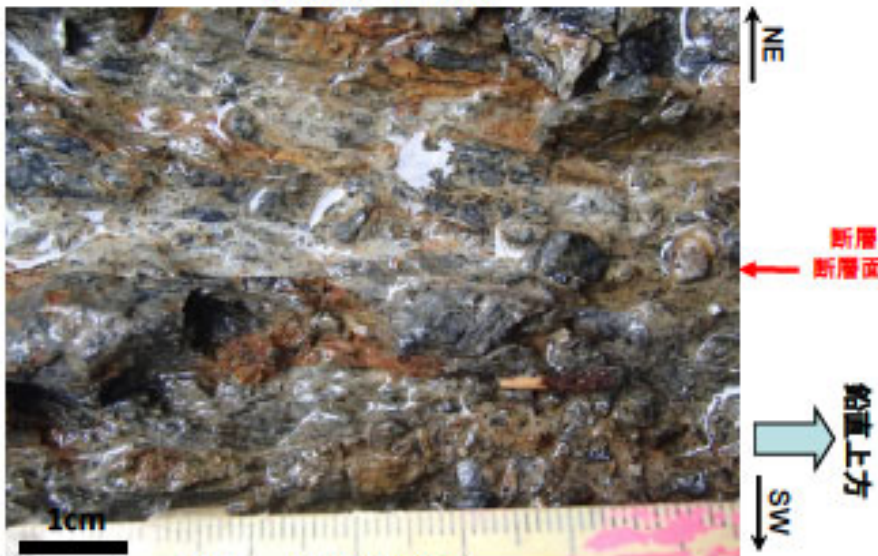


写真 g 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す P フォリエーション



写真 h 左横ずれ逆断層 (南上がり)センスを示す σ 組織

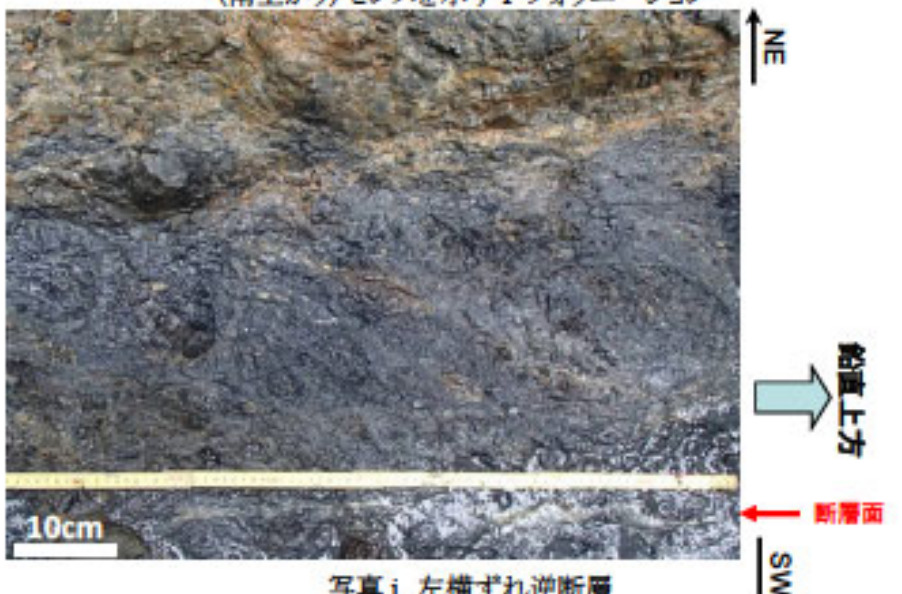
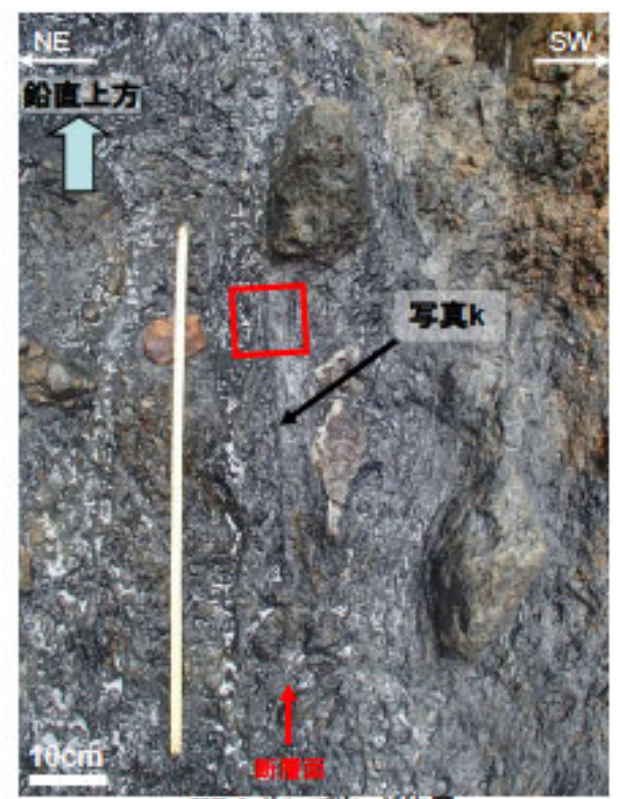


写真 i 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す P フォリエーション

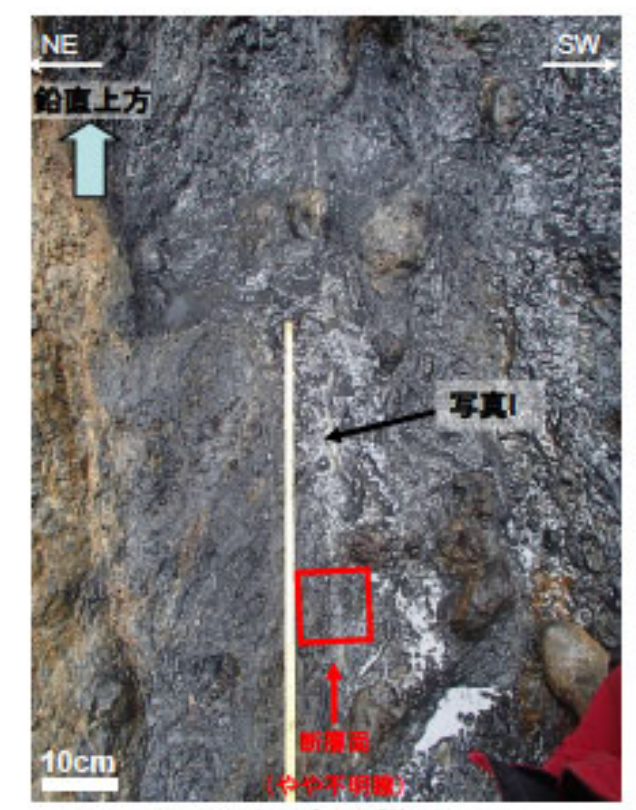
第 3.2.46 図(1) 熊川断層 条線観察結果 (Loc. 3、露頭観察) (1)



写真 A 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す変形指標が発達(P フォリエーションなど)



KF-1 サンプル位置
シャープな断層面に沿って幅 2~5cm の灰
黒色断層ガウジが認められる。



KF-2 サンプル位置
やや不明瞭な断層面に沿って幅約 2cm の白褐色断層
ガウジ(膨縮が激しい)が認められる。

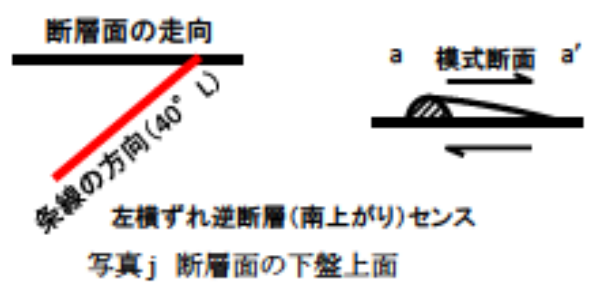
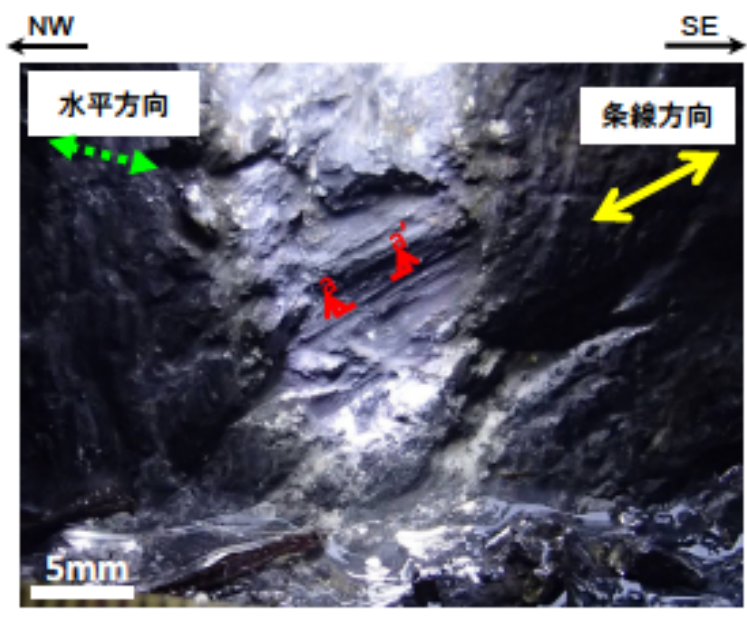


写真 k 左横ずれ南上がりセンスを示す変形指標

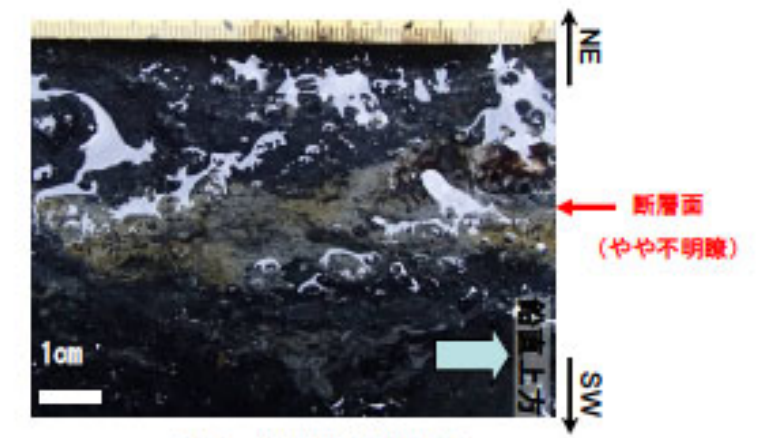
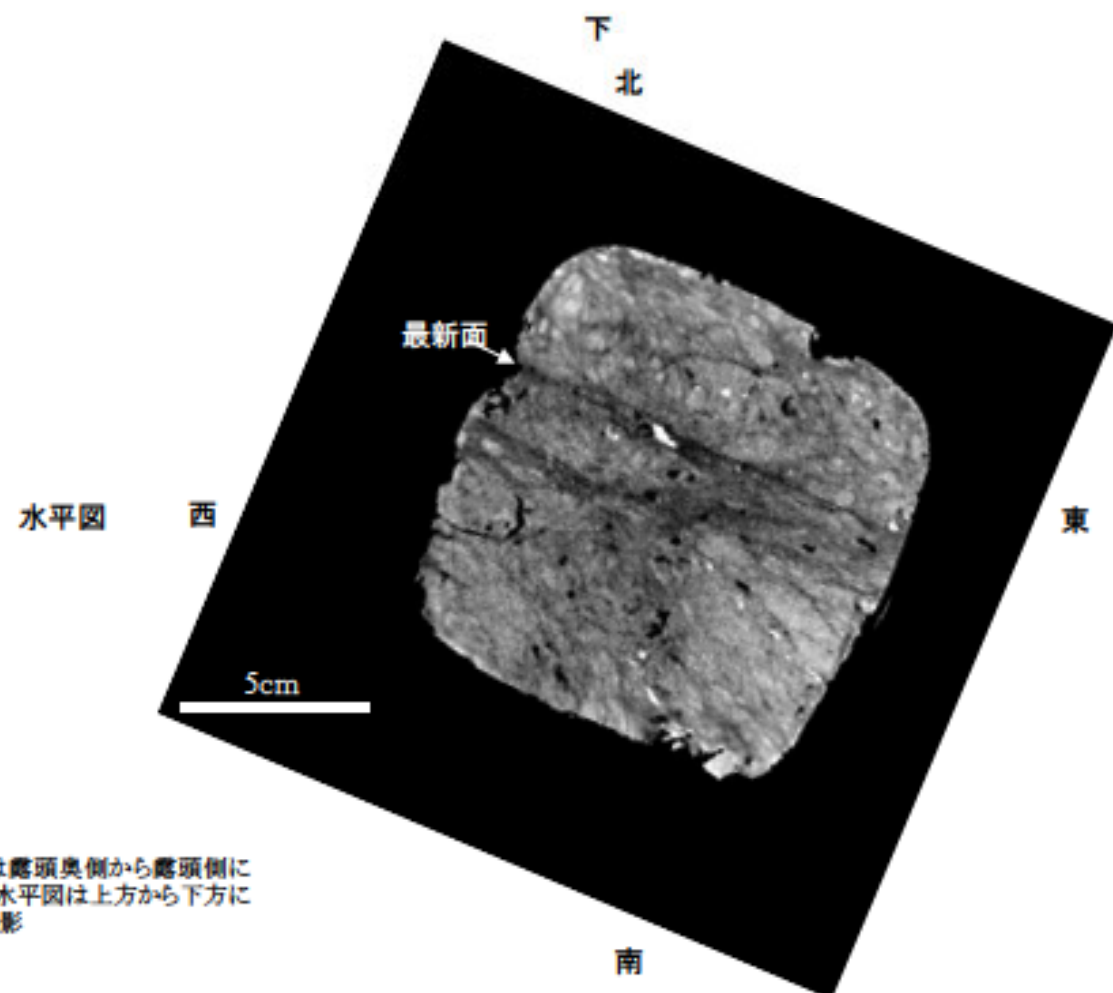
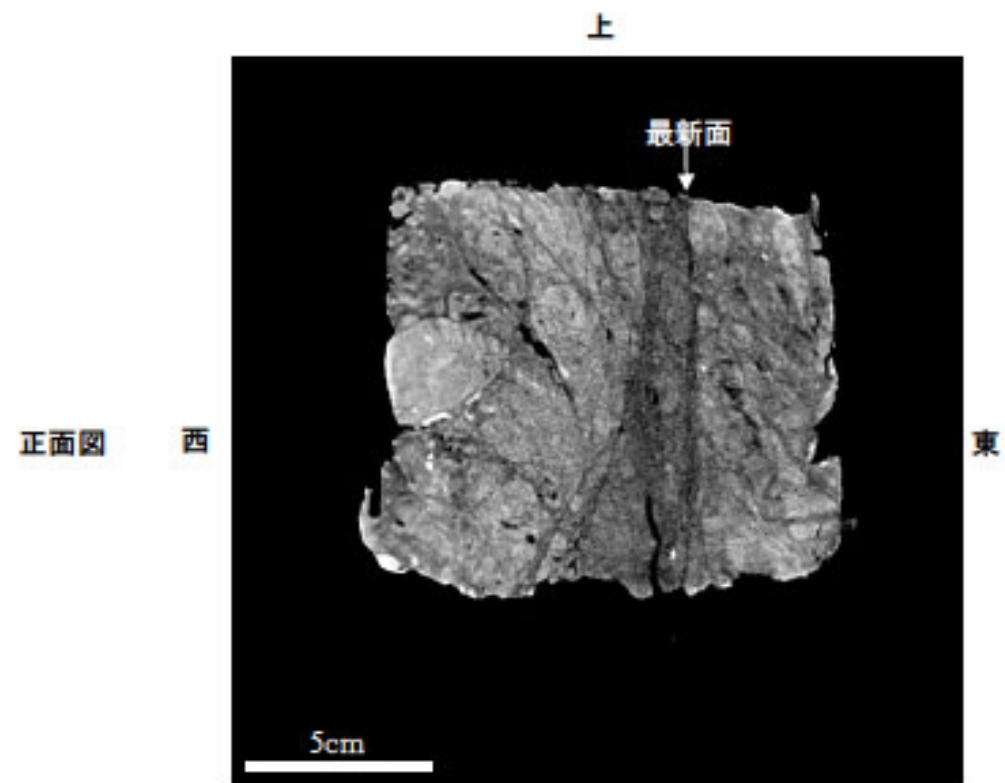


写真 l 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す P フォリエーション



※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、水平図は上方から下方に向けて撮影

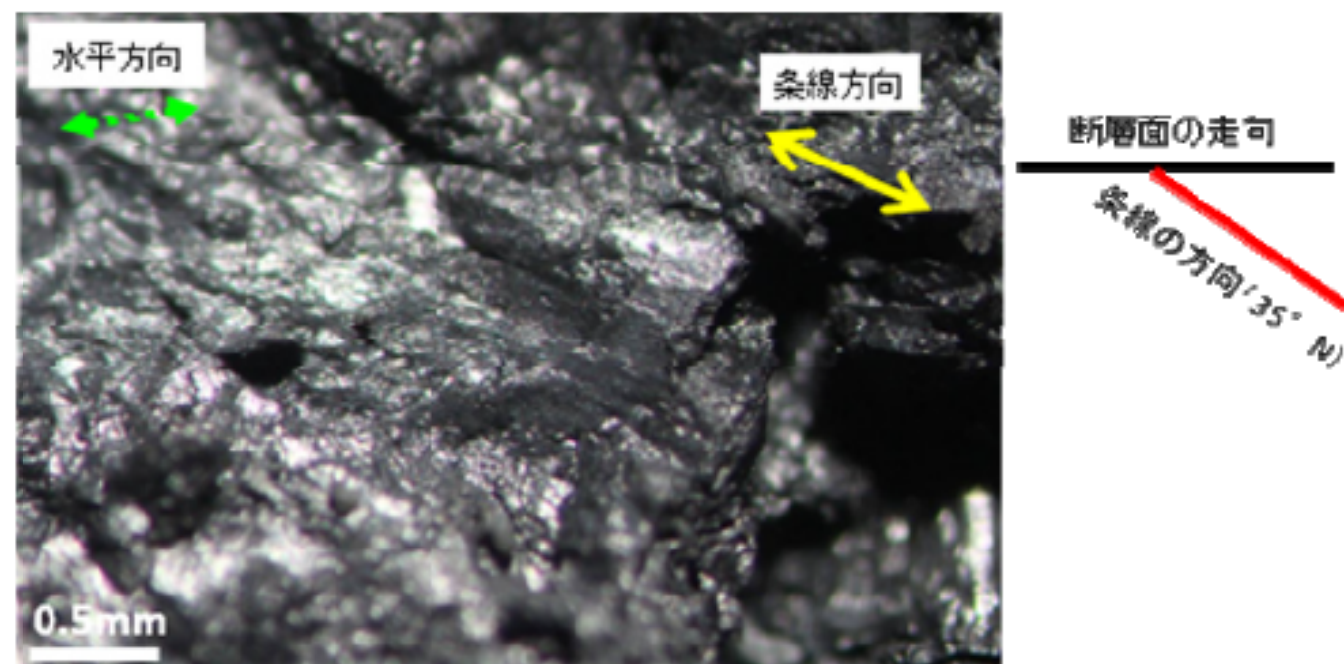
断層面の走向傾斜: N67W/90

縦ずれ成分: 南上がり, 横ずれ成分: 左横ずれ

最新面より西側幅 2~3cm のゾーンで密度低下が顕著(断層ガウジ)



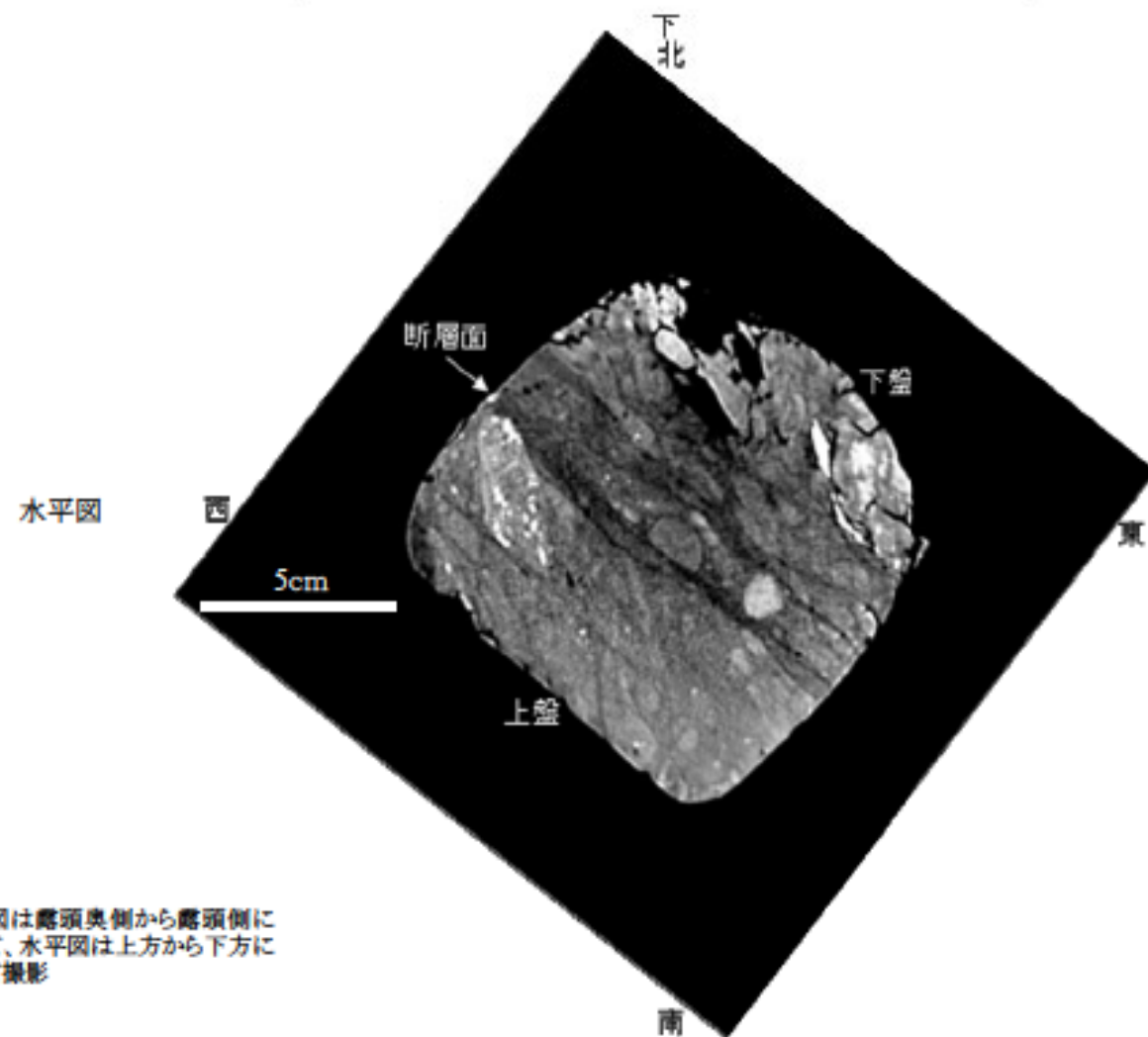
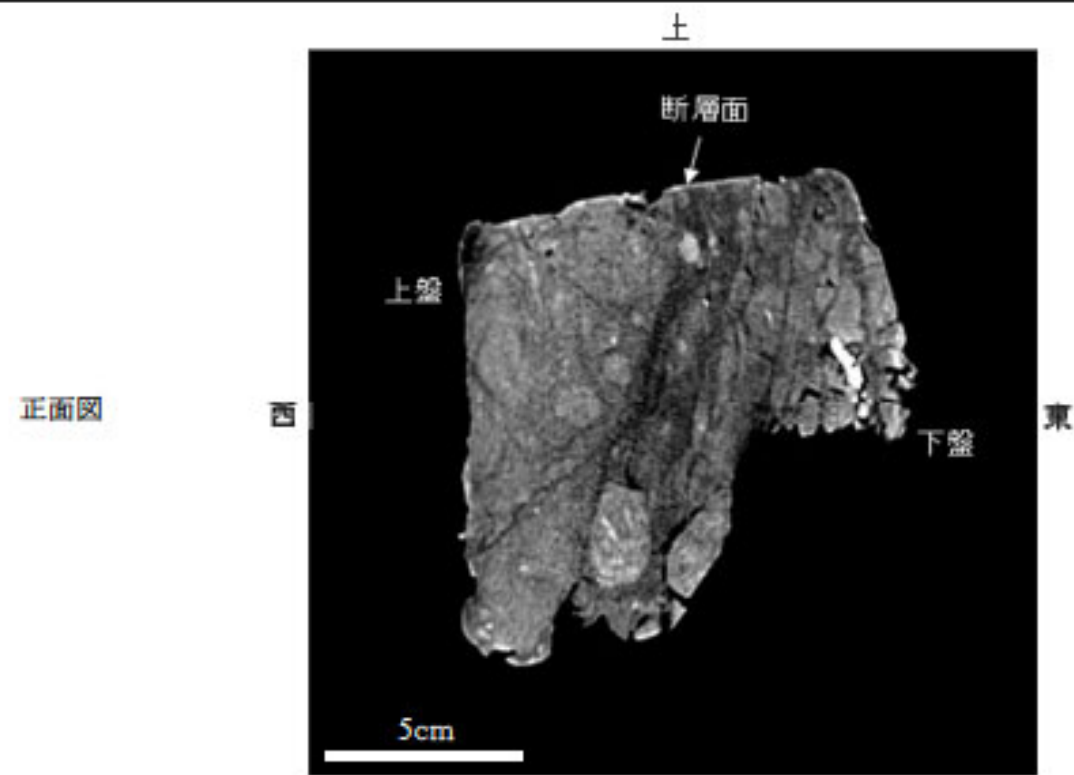
KF-1の断層面(東側から観察)



断層面の状況

センス不明

第 3.2.47 図 熊川断層 条線観察結果 (Loc. 3、KF-1 試料)



※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、水平図は上方から下方に向けて撮影

断層面の走向傾斜: N52W/80W

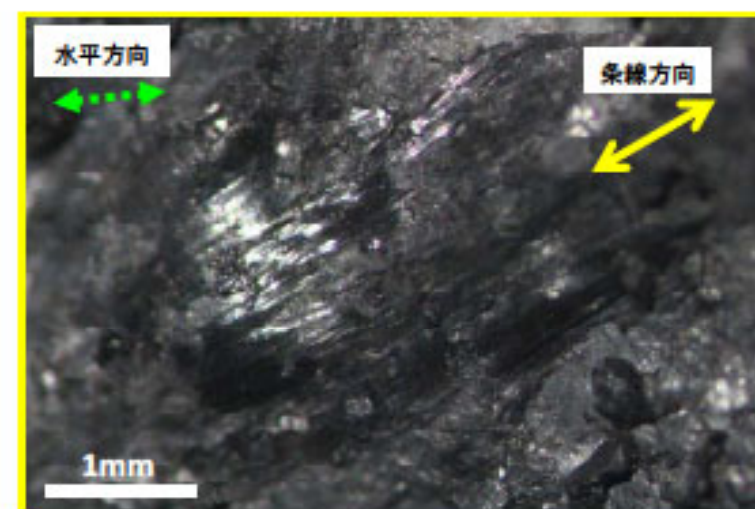
縦ずれ成分: 逆断層 (南上がり), 横ずれ成分: 左横ずれ

断層面の周囲に微小断層面が数条認められる。

中央部でやや密度が低下する。



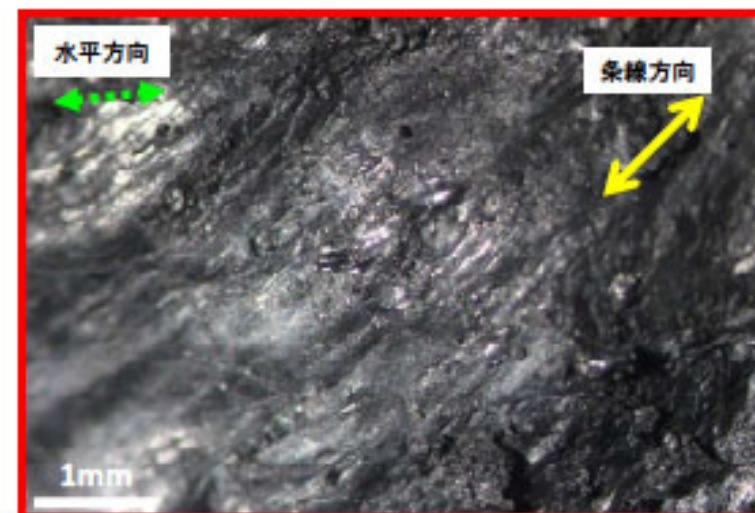
KF-2 (下盤上面)



断層面の状況

断層面の走向
条線方向 (24° L)

センス不明



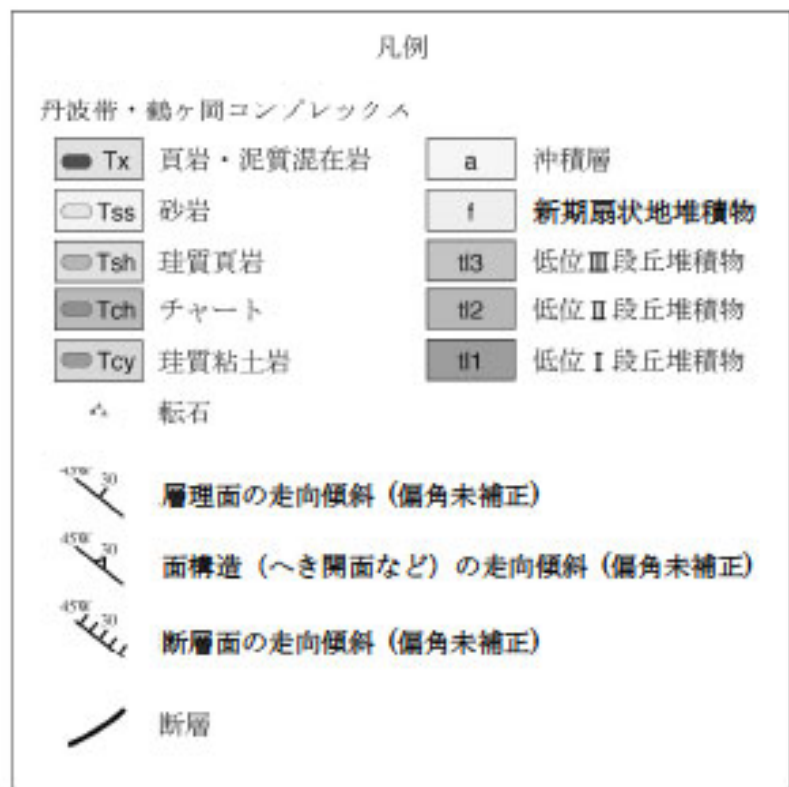
断層面の状況

断層面の走向
条線方向 (39° L)

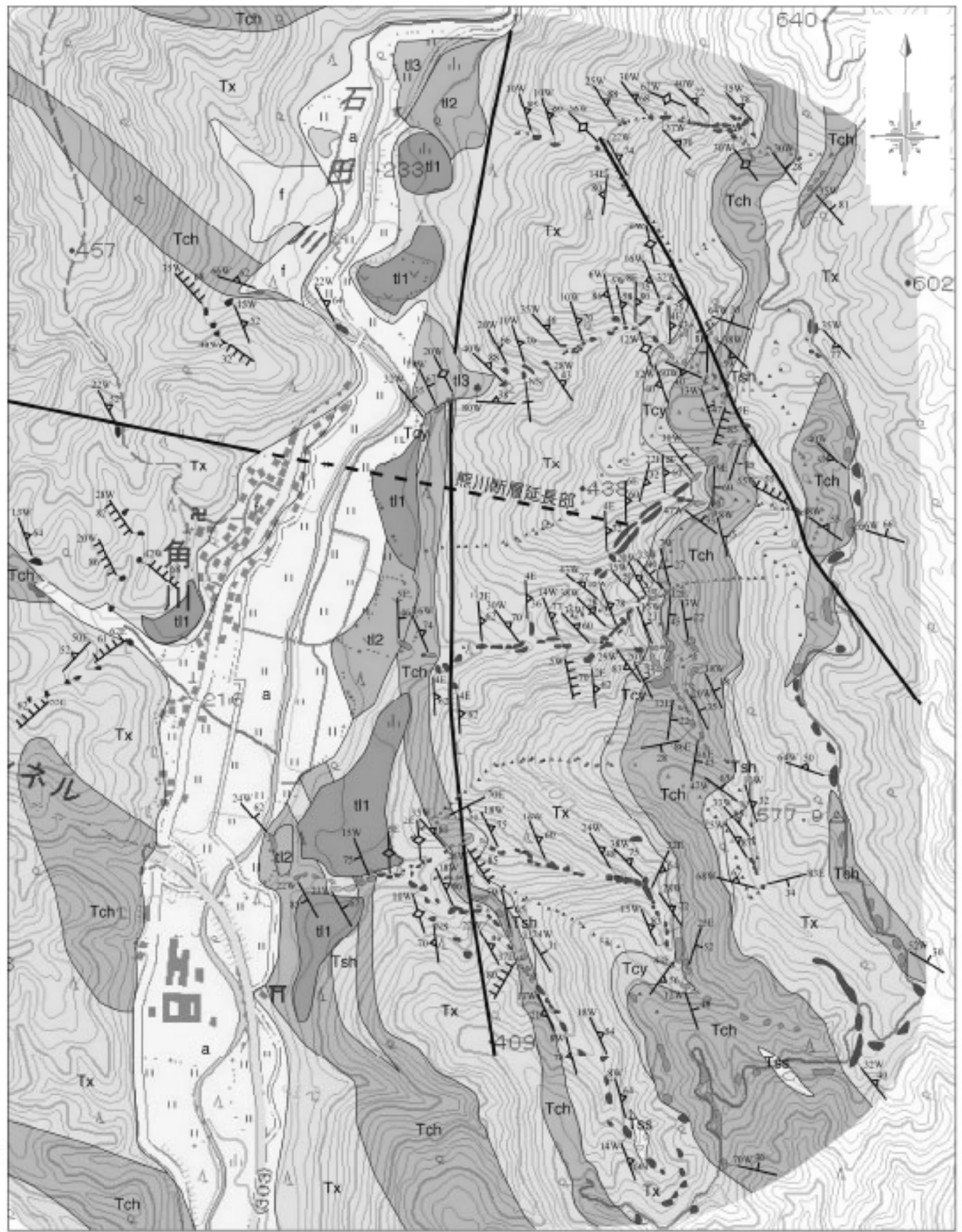
(上写真の断層面近傍の断層面: 上盤側)

センス不明

第 3.2.48 図 熊川断層 条線観察結果 (Loc. 3、KF-2 試料)



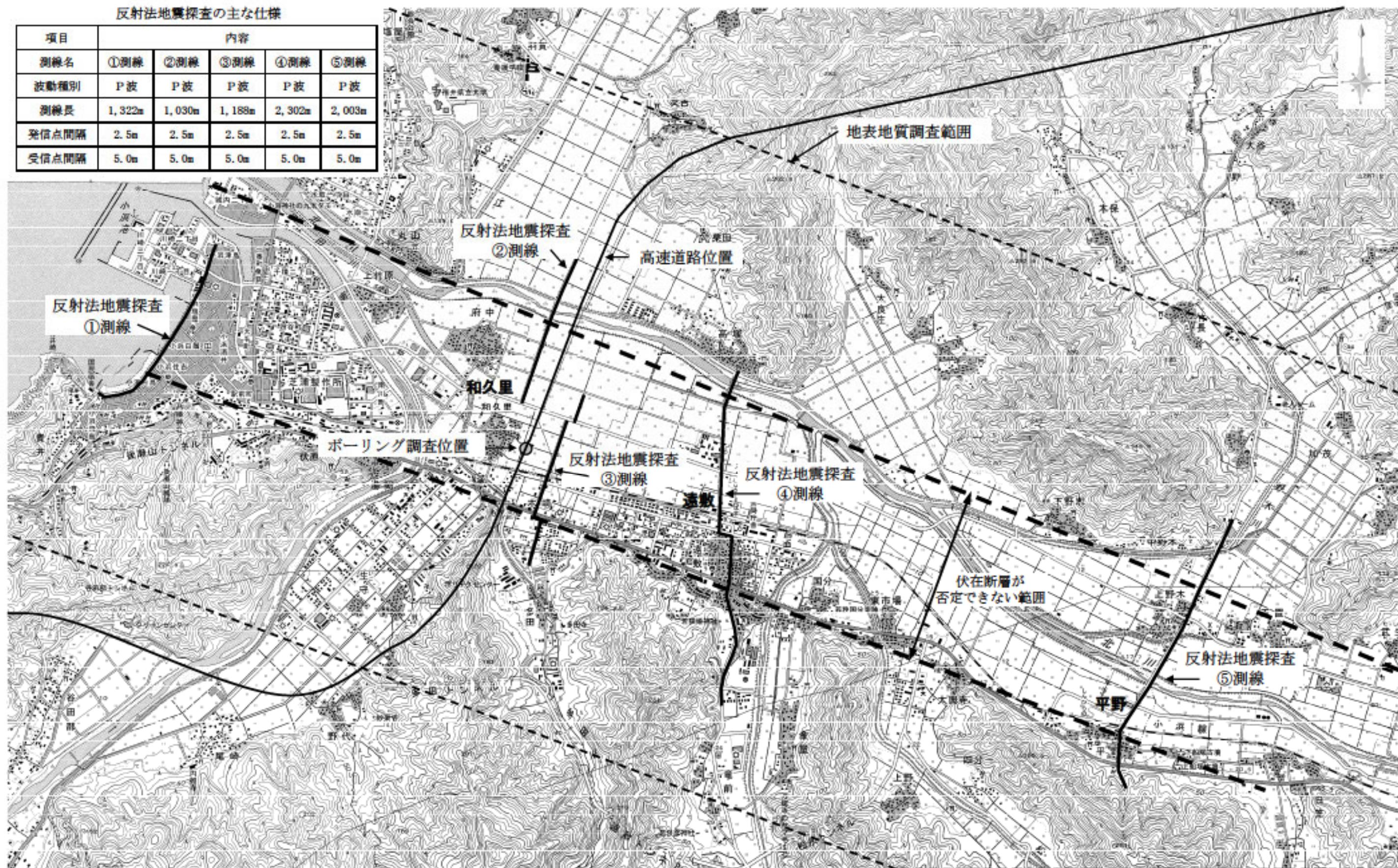
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情複、第211号)」



第3.2.49図 熊川断層 東端付近ルートマップ

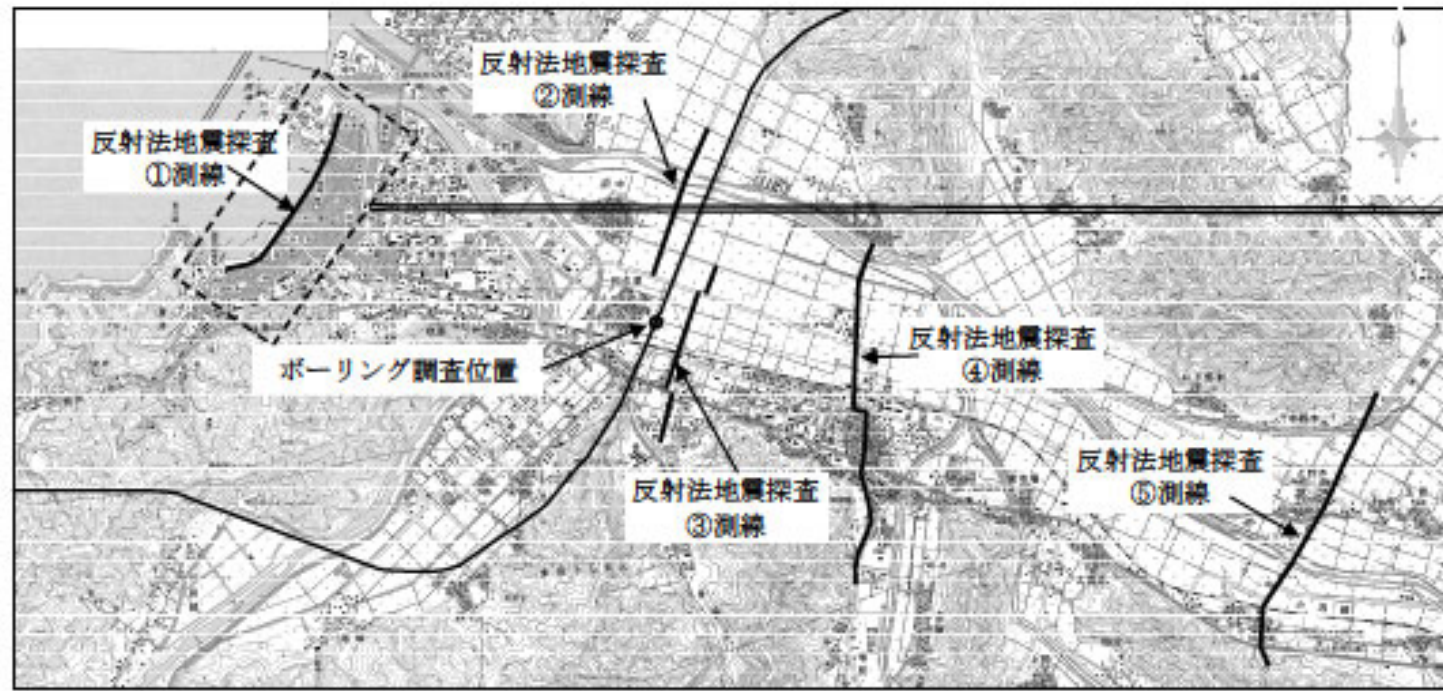
反射法地震探査の主な仕様

項目	内容				
測線名	①測線	②測線	③測線	④測線	⑤測線
波動種別	P波	P波	P波	P波	P波
測線長	1,322m	1,030m	1,188m	2,302m	2,003m
発信点間隔	2.5m	2.5m	2.5m	2.5m	2.5m
受信点間隔	5.0m	5.0m	5.0m	5.0m	5.0m

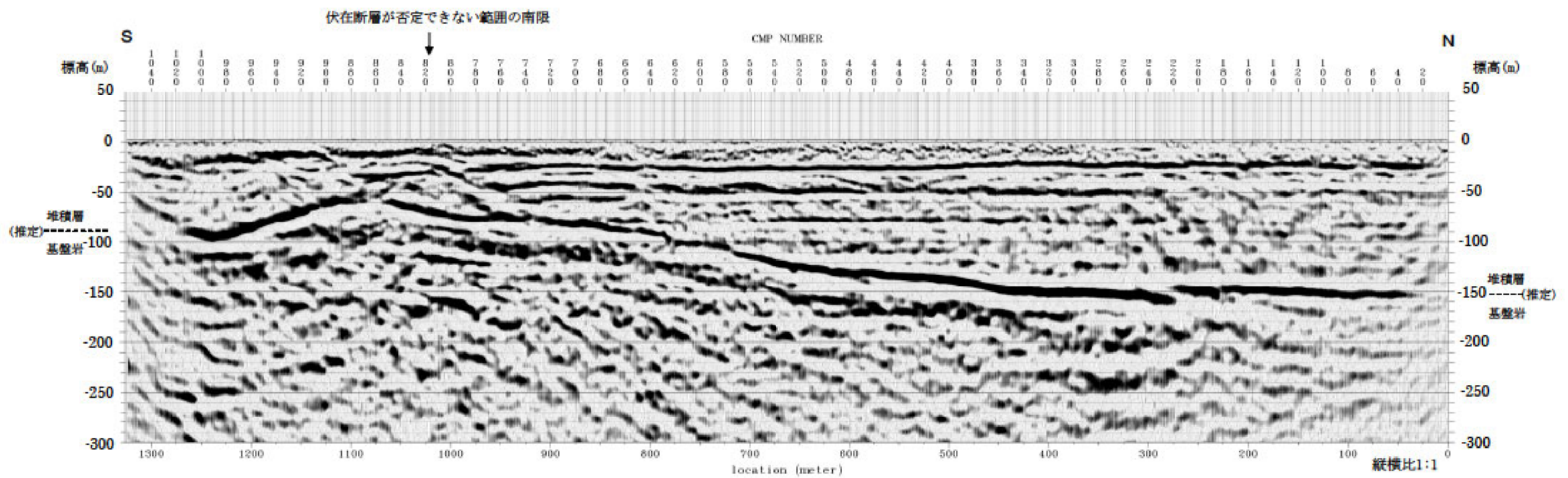
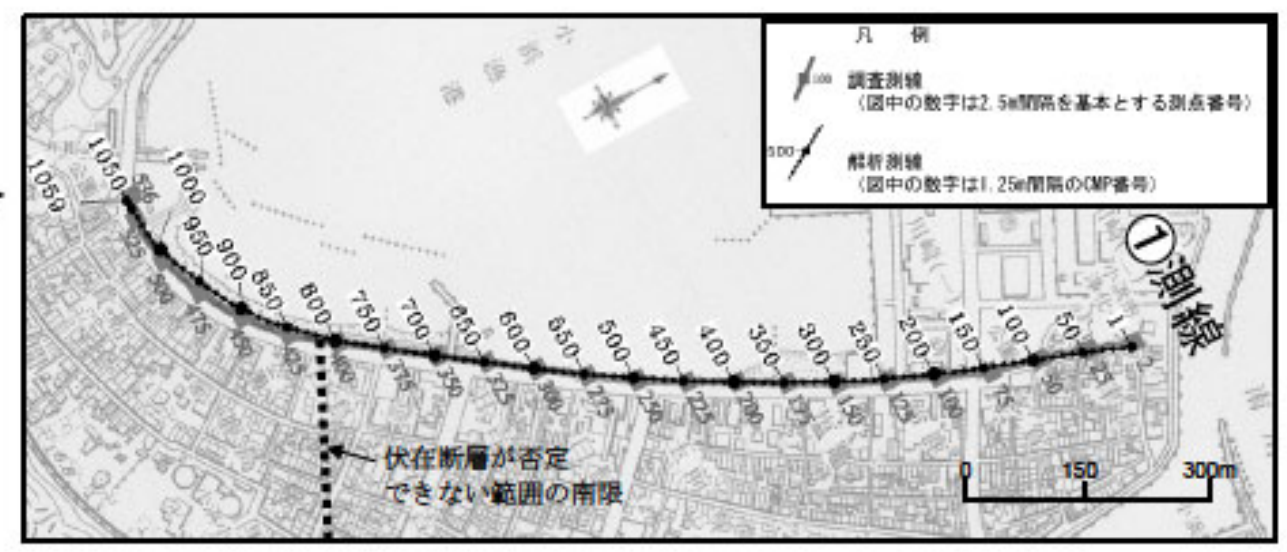


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情模、第211号)」

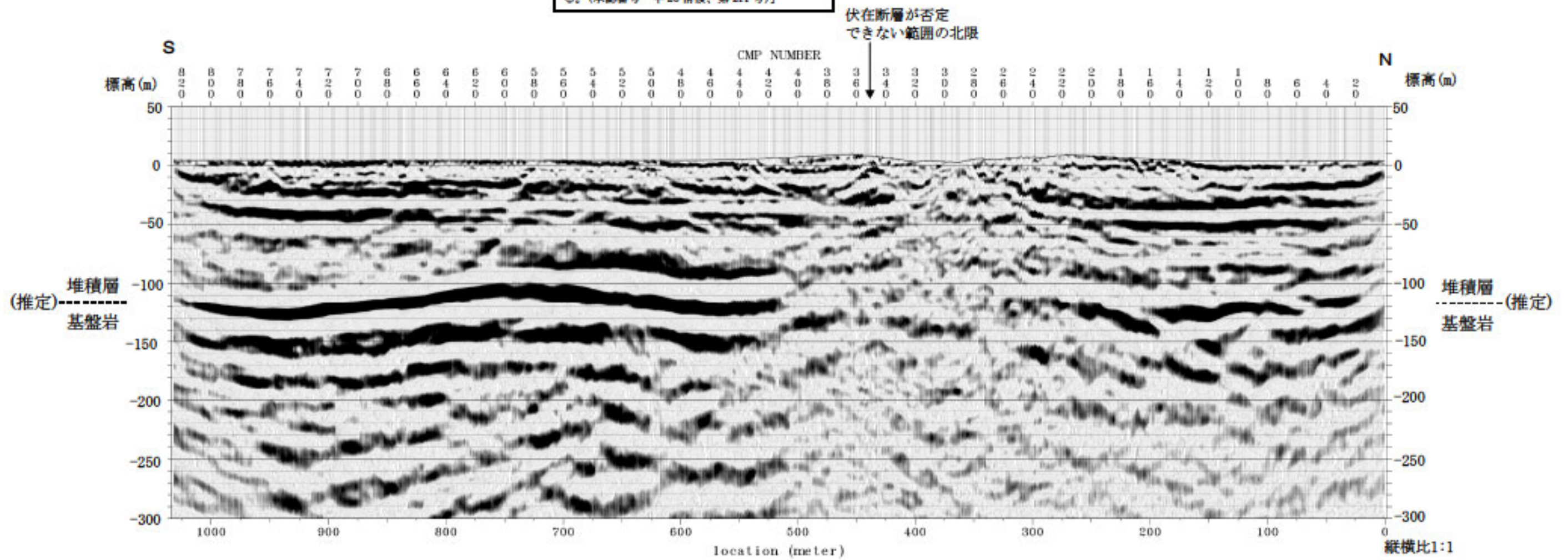
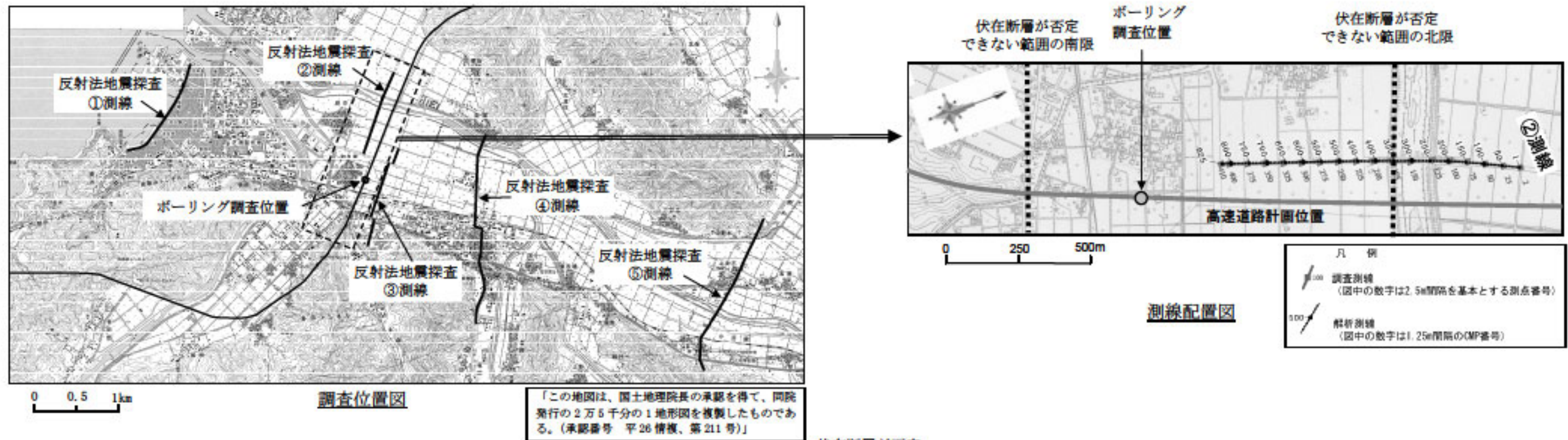
第3.2.50図 熊川断層 西端付近の調査位置図



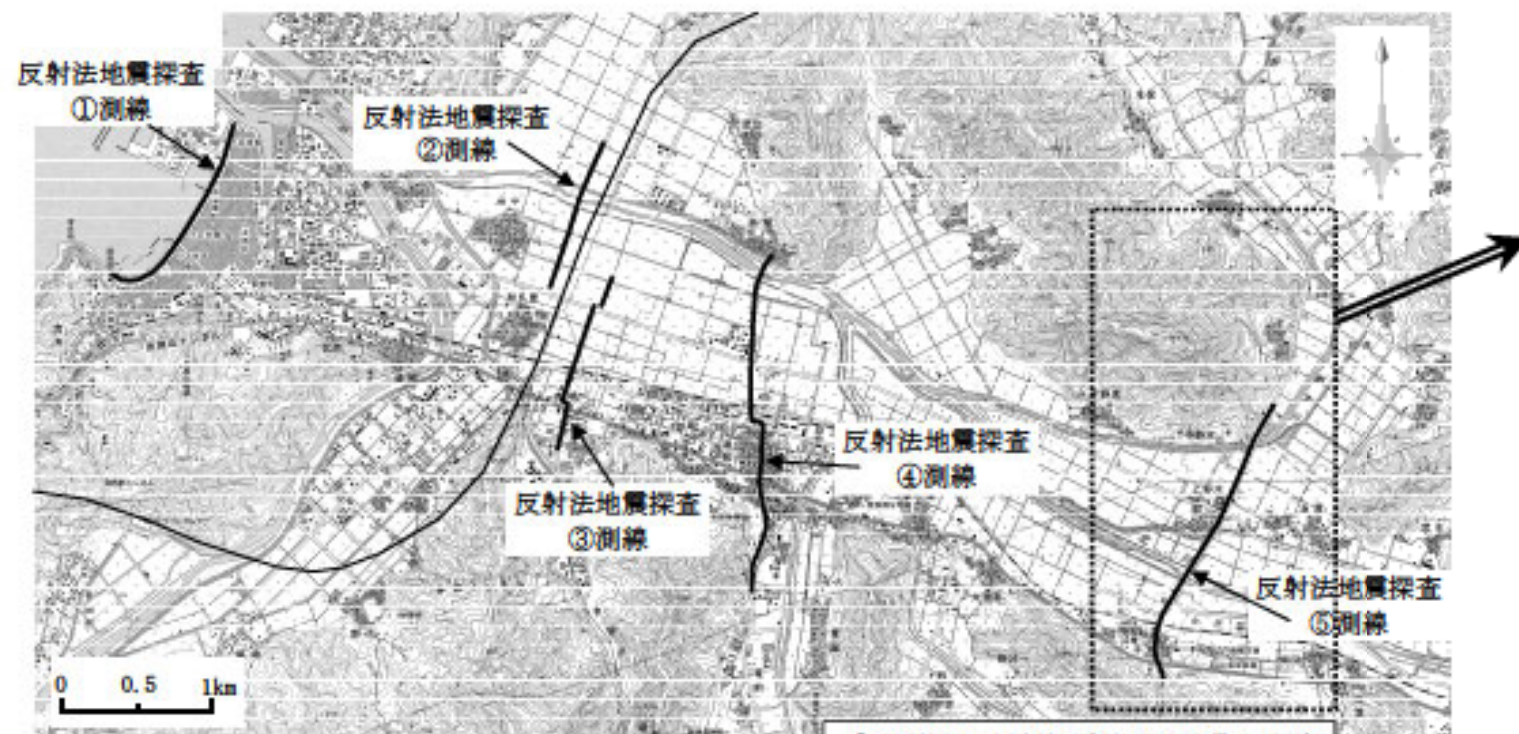
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情模、第211号)」



第 3. 2. 51 図 熊川断層 反射法地震探査記録 (①測線)



第 3. 2. 52 図 熊川断層 反射法地震探査記録 (②測線)



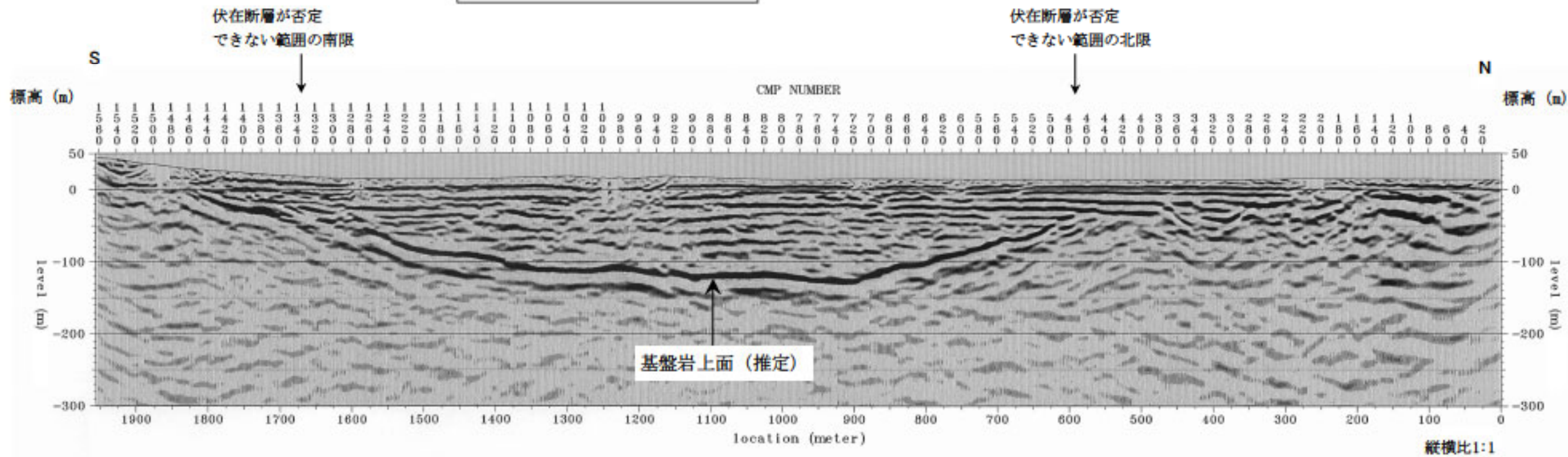
調査位置図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」

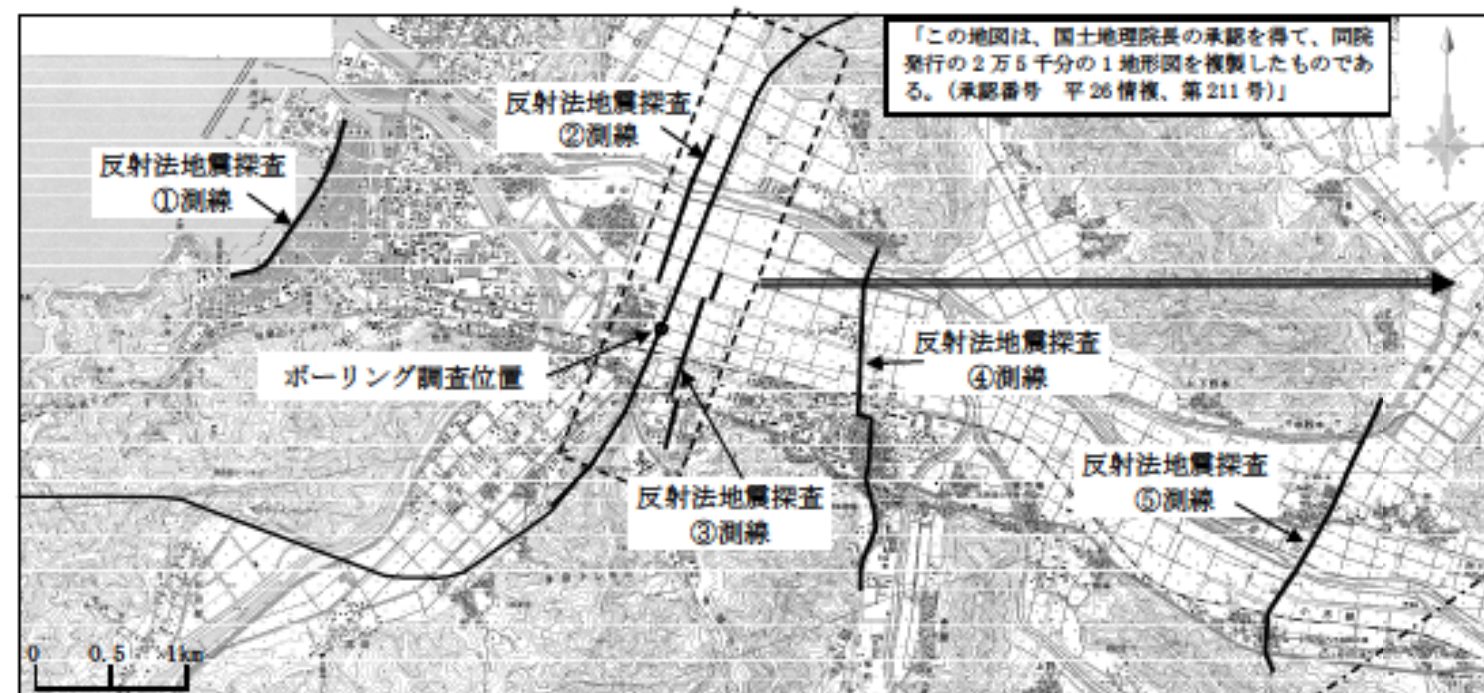


測線配置図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



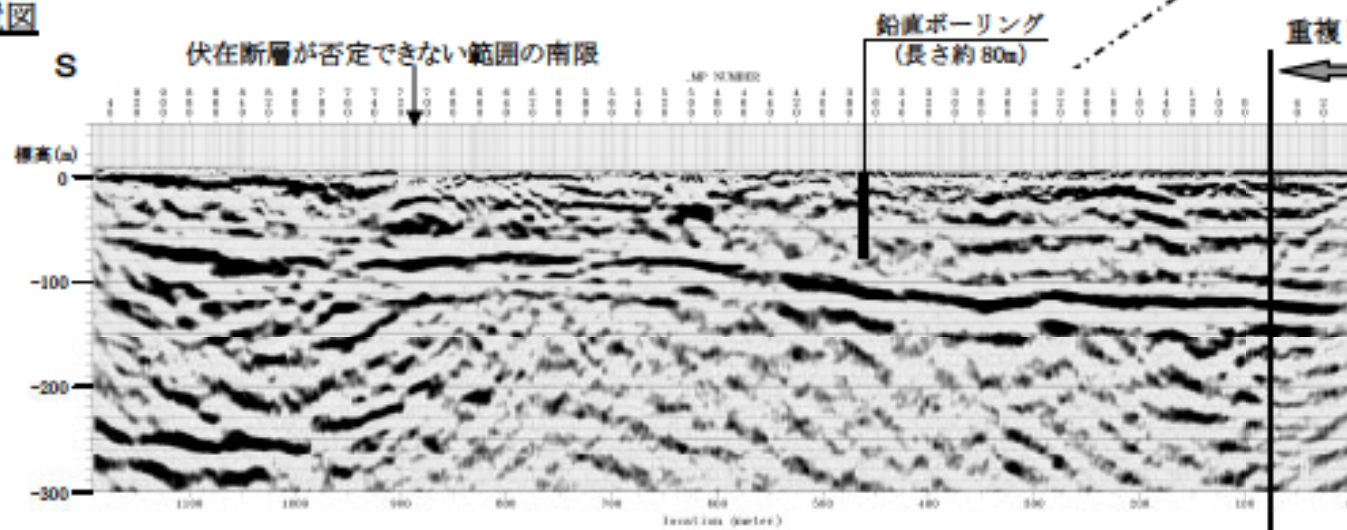
第3.2.55図 熊川断層 反射法地震探査記録 (⑤測線)



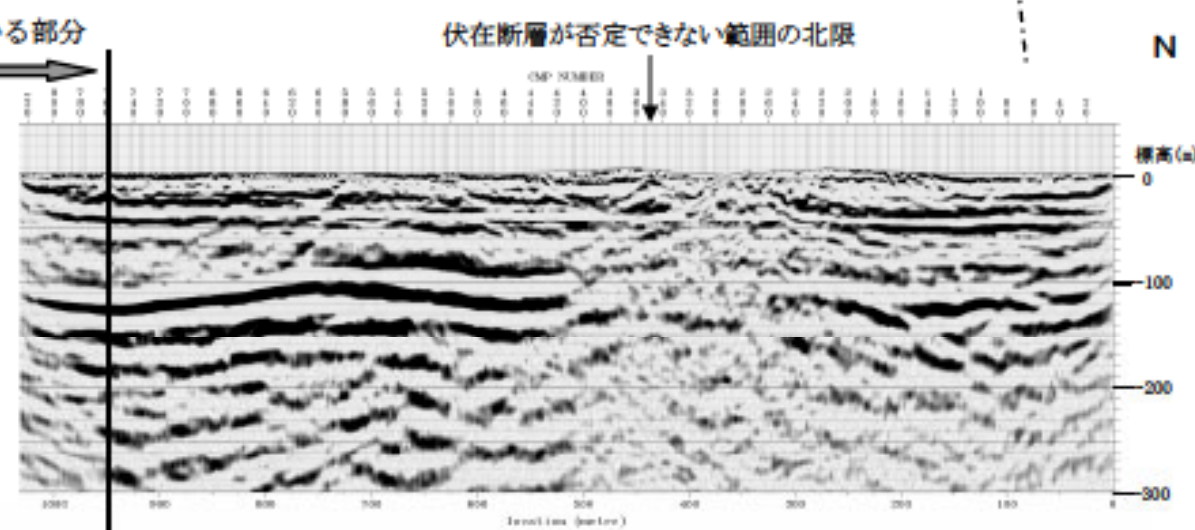
調査位置図



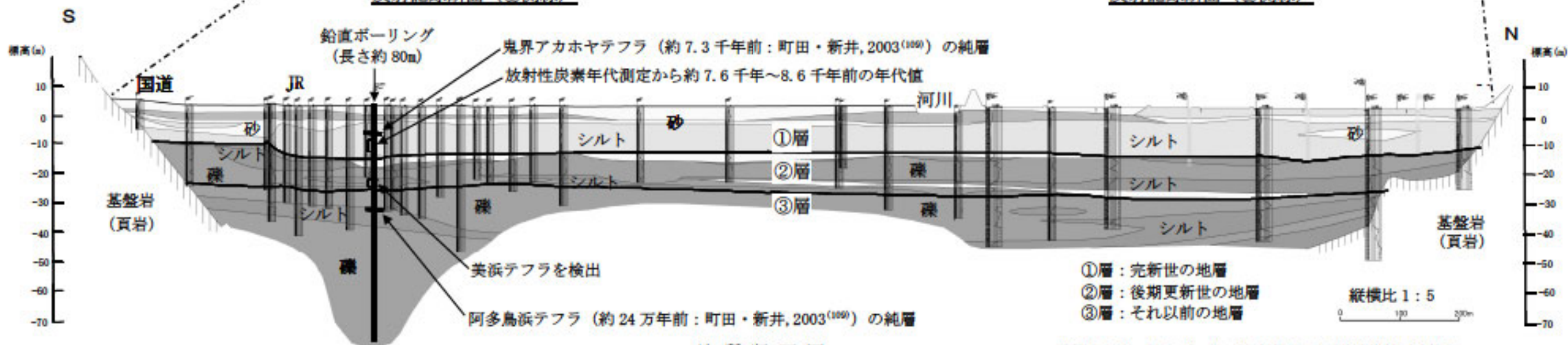
測線配置及び地質断面図作成位置図



反射記録断面 (③測線)



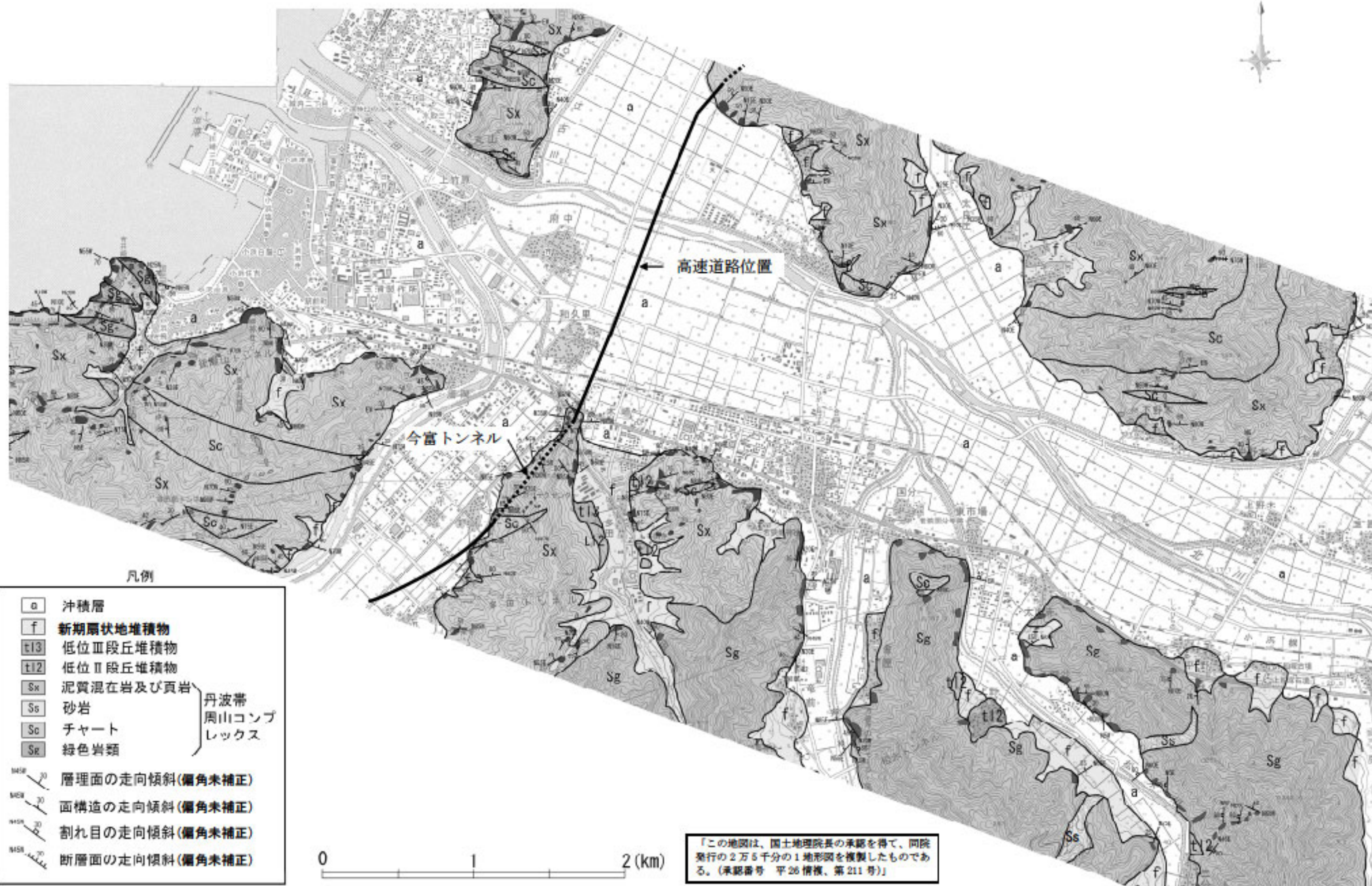
反射記録断面 (②測線)



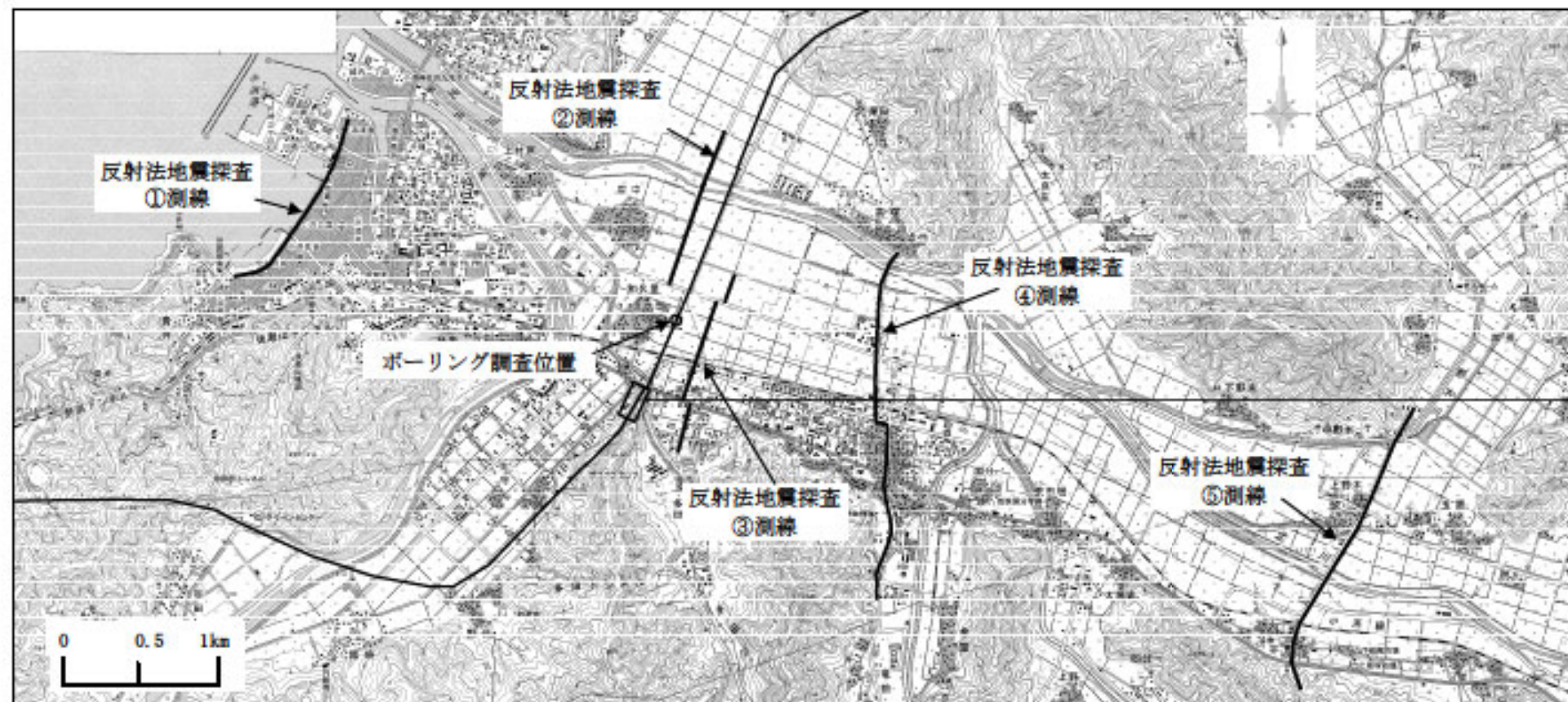
地質断面図

地質断面図は、今回のボーリング調査結果と西日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社より提供頂いたボーリングデータをもとに作成した。

第 3.2.56 図 熊川断層 反射法地震探査記録 (②, ③測線) 及び高速道路付近の地質断面図

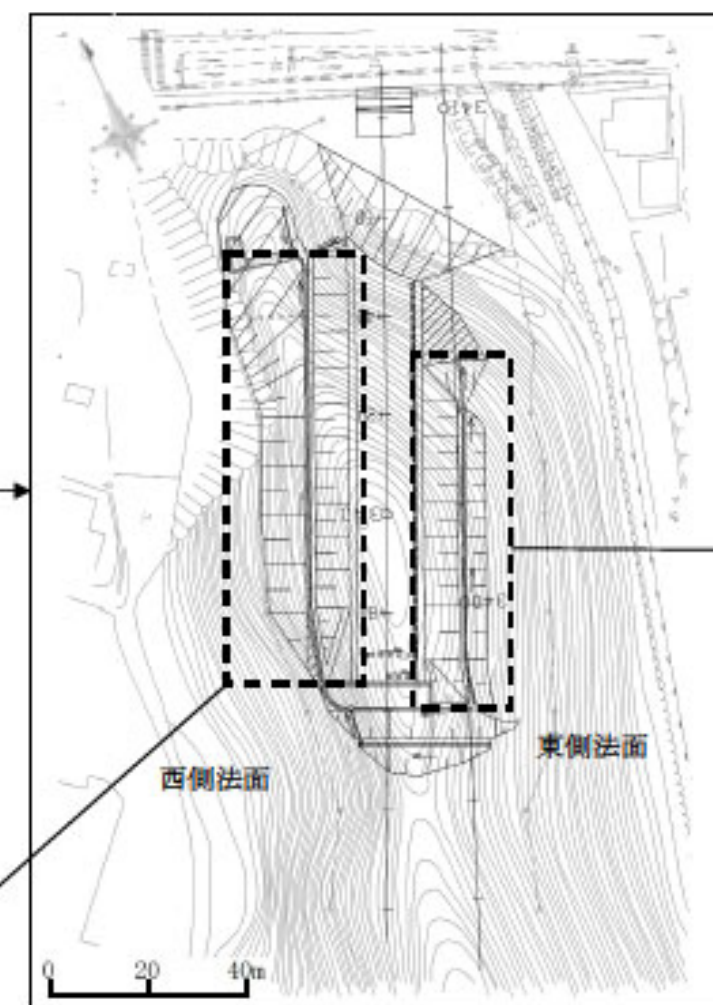


第3.2.57図 熊川断層 西端付近の地質図

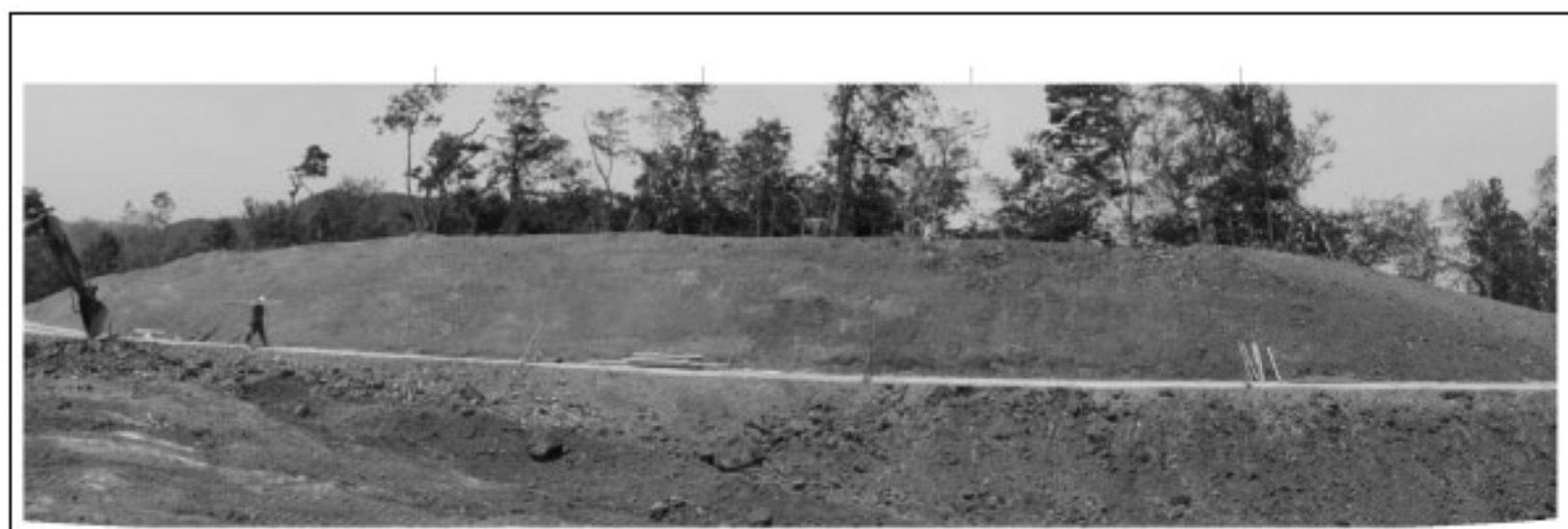


切土法面位置図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」



切土法面平面図



西側法面写真 (長さ約90m, 高さ約12m)

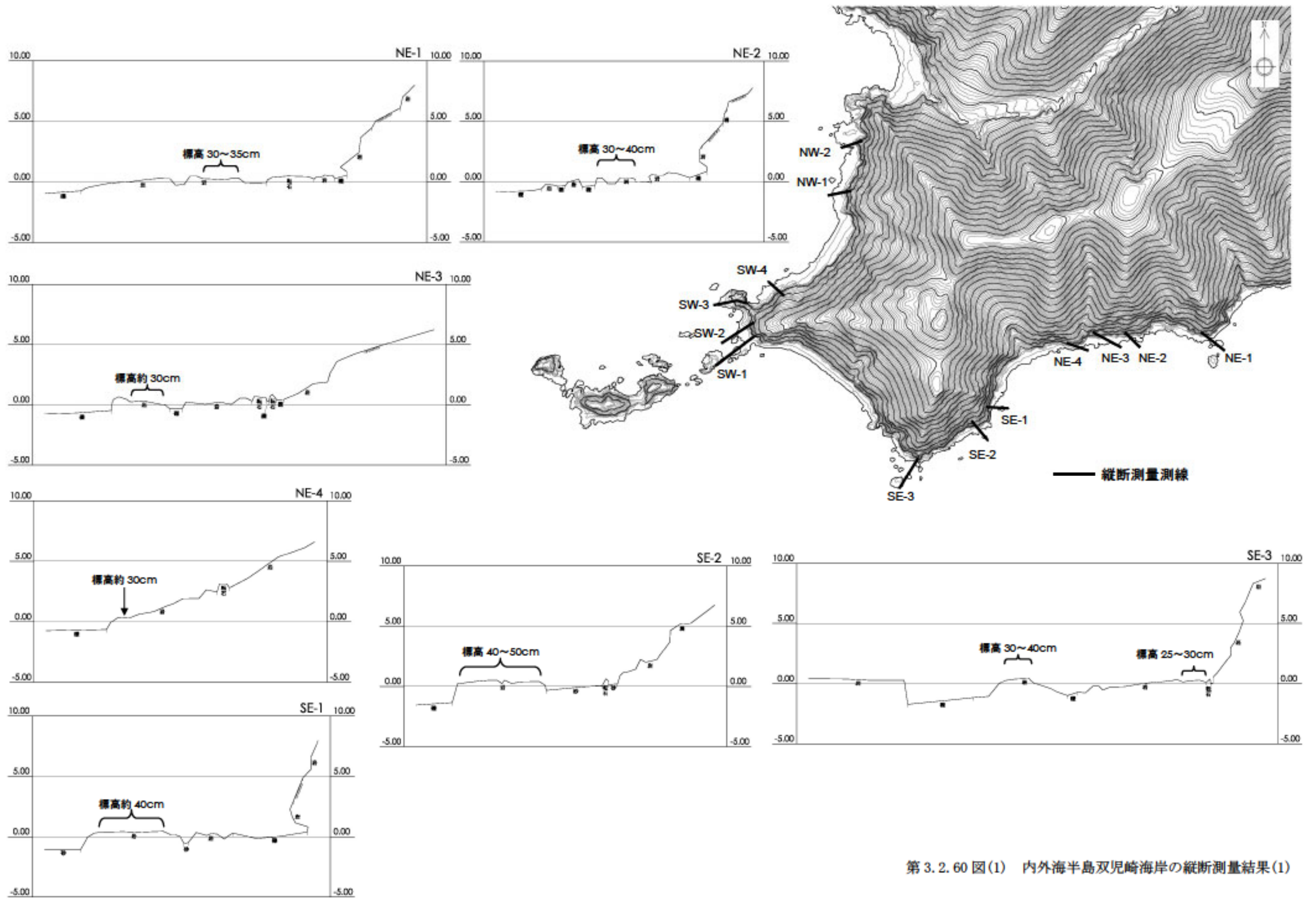
反射法地震探査③測線付近の高速道路切土法面の施工記録を確認した結果、断層は認められない。



東側法面写真 (長さ約70m, 高さ約12m)

切土法面平面図及び写真は、西日本高速道路株式会社より提供頂いた今宮トンネル施工記録より掲載。

第 3. 2. 58 図 熊川断層 西端付近の高速道路切土法面写真



第 3.2.60 図(1) 内外海半島双児崎海岸の縦断測量結果(1)